

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート

【令和2年度（下半期）】

1	連携分野	・・・・・・・・・・	P. 1
2	農業分野	・・・・・・・・・・	P. 7
3	林業分野	・・・・・・・・・・	P.12
4	水産業分野	・・・・・・・・・・	P.16
5	商工業分野	・・・・・・・・・・	P.18
6	観光分野	・・・・・・・・・・	P.21

令和3年度「産業振興計画」関連予算額

農業分野	409,529千円
林業分野	226,677千円
水産業分野	4,908千円
商工業分野	2,079,658千円
観光分野	156,898千円
計	2,877,670千円
総額 28.8 億円	
産業振興推進総合支援事業費補助金	6,000千円

分野					
連携テーマ	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
施策					
アクションプラン 主な内容					
連携分野					
1 地産地消の促進					
1. 地域産品の利用と販売促進					
【連携AP1】 (1) 地域産品の利用と販売促進					
○地元消費拡大フェアの開催 《農業14、林業15、水産12、商工4》	○西土佐地域産業振興推進協議会 (アツいまちサミットコラボ事業) ・米ナスのPRポスター作成、新メニュー開発セミナー ・西土佐地域13店舗で米ナスの新メニューを開発 ・米ナススタンプラリー (8月中、西土佐地域13店舗参加)	四万十市 (農林水産課・観光商 工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆産業祭来場者数 H30:20,000人 → R6:40,000人/5年 H31:3,000人 R2:中止 ◆学校給食への市内農産物 (野菜類)の供給率 H30:39.18% → R6:50% H31:45.7%	◆地域産品への関心と利用 意識が高まっている	【農業分野】 ○農産物ブランド化事業 (しまんと農法米普及促進) 135千円 ・東京での商談会等に参加 ○西土佐地域地産地消推進協議会の開催 - ・地産地消の仕組みを協議し年間計画を策定 【林業分野】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 200千円 ・森林環境学習フェアへ出展PR予定 ○幡多流域林業活性化センター負担金 85千円 ・林業生産性の向上、林業技術者の確保育成、 林業関連事業者間の連携促進 ○市産材利用促進事業 30,000千円 ・補助金年間利用件数見込み:30件 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 318千円 ・「四万十ヒノキの家」の見学、宿泊体験実施 ○フェア等の開催 - ・「幡多山もりフェス2021」開催 【商工業分野】 ○地産外商促進事業 (西土佐地域出店関係) 692千円 ・ふるさとまつり、枚方物産展、大丸フェア、ピルロッコ ○道の駅よって西土佐で旬の産品フェアを毎月開催 - ○西土佐地域産業振興推進協議会 - ・西土佐地域の素材を活かした地域活性化を協議 ○西土佐産業祭 700千円
○地元農畜産物の公共施設での利用促進 《農業14、18》	○よって!四万十おいしんぼまつり ・西土佐江川崎の奈路商店街を会場に開催 (10月) ○西土佐地域地産地消推進協議会 (6、2月)				
○有機農産物の流通促進 《連携8、農業16》					
○木造住宅建築への支援《林業14》	○市産材利用促進事業 申請件数:29件 (見込) ○幡多流域林業活性化センター (会員:26団体) ・林業生産性の向上、林業技術者の確保育成、製材・加工・流通事業者、利用者 (建 築等)間の連携促進 ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 宿泊者:34組、延べ159名 見学者:85名 (12月末現在) ○林地残材の搬出促進 バイオマス証明書発行4件		◆市産材利用促進事業の着 工件数 H27-H30平均:27.3戸/年 → R6:30戸/年 H31:41戸/年		
○木材流通ネットワークの構築とコー ディネイト組織の設立 《林業13、14》					
○木造化、木質化への情報発信、普及・ 啓発の強化《林業15》					
○林地残材等の搬出の促進 《林業16》					
○木質バイオマスボイラー等の普及促 進《林業17》					
○漁協の販売機能の強化 《連携8、水産11》	○地産外商活動 (新型コロナの影響で減少) (実施主体:四万十川西部漁業協同組合 (あゆ市場)) ・天然鮎の高付加価値化 活鮎の豊洲市場出荷 (6月) ・フェスティバル土佐ふるさとまつり (高知市、11月)			◆漁業協同組合の販売機能 R6:強化	
【連携AP2】 (2) 地域産品の販売拠点づくり					
○市内量販店等を拠点とした販路拡大 《農業14》	○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業 中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金 2,435千円 4月1日 「Shimanto+Terrace はれのぼ」オープン 毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 10月 中心商店街活性化協議会開催 地域おこし協力隊の配置 (1名 中心市街地活性化) ・活性化イベント実施 (10月~12月) ・はれのぼPR動画配信 (10月~) ・「GOOD DESIGN AWARD2020」グッドデザイン賞受賞 (10月) ・「日本空間デザイン賞2020」銅賞受賞 (10月)	四万十市 (企画広報課・農林水 産課・観光商工課・産 業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商店街通行者数 (平日) H27~H30平均:5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日 ◆農林水産物等直販所販売 額 H29:13億1,200万円 → R6:15億円 H30:13億100万円 ◆道の駅「よって西土佐」 入込客数 H30:18万6,924人 → R6:20万人 H31:19万3,852人	◆市内の様々な販売拠点に おいて、地域産品の利用、 販売が促進されている。	【商工業分野】 ○商店街活性化モデル事業 (中村商工会議所) 900千円 ・公家行列及び地域産品の販売PRを支援 ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業 2,353千円 公共部分 (公園・トイレ)に係る維持管理費を補助 ○地域おこし協力隊経費 (中心市街地活性化1名) 4,330千円 ○地域おこし協力隊経費 (まちなか景観形成1名) 4,400千円 ○集落活動センター事業 - (実施主体:大宮集落活動センター) ○新食肉センター整備推進事業 450千円 ・基本設計実施予定 (補正予算対応予定) ・都市計画決定用図面作成業務 ・家屋事前調査業務 ・新食肉センター整備検討会3回程度 (60千円) ・先進地視察等 (240千円)
○新たな拠点 (旧土佐銀行跡地) によ る情報発信の強化と賑わいの創出 《連携8、商工10》					
○拠点施設間での連携 《商工10》					
○直販所の拠点機能の強化 《農業15》					
○道の駅「よって西土佐」の機能拡充 《連携8、農業15、商工18》	○集落活動センター事業 (実施主体:大宮集落活動センターみやの里) 4月~ 視察受入等※軽食・配食サービスは新型コロナのため休止中				
○拠点ビジネスの推進 《商工18》	○直販所の拠点機能強化 ・JAグリーンの移転建替え (実施主体:高知県農業協同組合) 移転工事着工 (9月)、工事完了 (3月予定)、4月オープン予定				
○新食肉センターの整備・新食肉セン ターを核とした地域産業の振興 《商工5》	○四万十牛本舗移転工事 (実施主体:㈱四万十牛本舗) 高知県産業振興補助金を活用 ・移転工事着工 (6月~) ・新店舗完成 (1月) ○新食肉センター整備推進事業 9月に国交付金断念の方向性を確認し、今後について県、事業者、市内部で協議継続 ・事業者担当者会 (4月、8月、3月予定)、事業者ヒアリング (5月~6月) ・政策会議及び庁内検討会 (予定を含め6回) ・新食肉センター整備検討委員会 (9月) ・事業者ワーキンググループ会 (12月~4回予定) ・業務手法検討業務及び整備計画等作成業務 (委託期間R1.9~R2.8)				
2 地産外商の推進					

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主要事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
連携分野					
1. 商品開発と磨き上げ					
【連携AP3】					
(1) 地元農畜産物を使った商品開発					
<ul style="list-style-type: none"> ○戦略品目のブランド化 《農業16》 ◎40010日プロジェクト 《農業16》 ★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進 《農業16》 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興 《農業16、商工18、観光4》 ○地元農畜産物を使った商品の開発 《農業17》 ○意欲的な生産者への支援 《農業17》 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶしゅかん産地化推進事業委託 (実施主体：四万十ぶしゅかん生産者組合) 地方創生推進交付金を活用 4月～ ぶしゅかんの栽培管理、普及等 ○ぶしゅかん栽培基準検討会 (実施主体：四万十ぶしゅかん生産者組合) ・農薬等の栽培基準の制定など協議 ○ぶしゅかん栽培現地検討会 4月～ 栽培管理指導、巡回指導 ○しまんと100年 40010日プロジェクト ・JA高知県中村支所による「しまんと農法米」の取り組み 栽培面積拡大、生産量の増加 (R2実績:1,759a、52.8t) ・具同小学校でしまんと農法米の学習等 しまんと農法米 (5年生が栽培) を原料とした「かりんとう」を市立保育所の給食に採用、しまんと農法米の授業、田植を実施 ・しまんと農法米の売上げの一部を清流保全基金に寄付 (JA高知県、具同小) ・しまんと農法米の栽培反省会、栽培講習 (浅水代掻き) ・プロジェクトロゴの活用拡大 (他類型を追加商標登録に係る出願) ○養豚場の整備促進 ・東中筋地域で検討したが整備には至らず ○四万十牛本舗移転工事 (県産振補助活用) 【再掲】 (実施主体：(株)四万十牛本舗) 高知県産業振興補助金を活用 ・移転工事着工 (6月～) ・新店舗完成 (1月) ○西土佐地域産業振興推進協議会 (アツいまちサミットコラボ事業) 【再掲】 ・米ナスのPRポスター作成、新メニュー開発セミナー ・西土佐地域13店舗で米ナスの新メニューを開発 ・新メニュー「米ナスドッグ」の開発 (リバーベキュープロジェクトと連携) ○しまんとリバーベキュープロジェクト (R02.4.6設立) ・BBQ講演会、SCAクッキング・ジャッジクラス講習会、BBQジャポリーしまんと ・SCAA ステキ&鮎の塩焼きコンテスト、西土佐ミニア、商品開発ワークショップ 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) JA高知県 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t H31:21.2t R2:26.7t ◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha H31:44.0ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均:431.5t/年 → R6:445t H31:432.0t ◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha H31:49.2ha ◆栗生産量 H27-H30平均:23.5t/年 → R6:60t H31:19.6t ◆米ナス栽培面積 H30:504a → R6:490a H31:421a ◆米ナス生産量 H30:260t → R6:359t H31:277.5t ◆一次産品等を活かした新商品の開発 (農畜産物加工品以外を含む) H30:117アイテム → R6:307アイテム/5年 H31:127アイテム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆四万十ブランドの確立や加工商品開発による高付加価値化が図られ、安定した農業経営につながっている ◆しまんと農法米栽培面積 H30:10.22ha → R6:20ha H31:15.27ha R2:17.59ha ◆しまんと農法米生産量 H30:33.2t → R6:80t H31:44.25t R2:52.8t 	<ul style="list-style-type: none"> 【農業分野】 ○ぶしゅかん普及推進事業 ・新規定植 (苗代への補助) 1,000本 200a ・有害鳥獣対策用防護柵 (設置費補助) 750m ・ブランド化確立等業務委託 ○地域おこし協力隊 (ぶしゅかん:中村1名) 3,833千円 ○ぶしゅかん産地化推進計画の策定 ・目標栽培面積、生産量、青玉の流通 (選果体制) ※市、県、生産者組織、加工業者等で協議 ○地理的表示保護制度 (GI) 登録に向けた調査研究 ○四万十ぶしゅかん(株)を主体に商談会、展示会へ参加 ○40010日プロジェクトの活用拡大 262千円 ・他類型を商標登録 ○しまんと農法米普及促進 【再掲】 【135千円】 ・東京での商談会等に参加 ○露地作付面積日本一ミナスを活用した地域活性化事業 (西土佐地域産業振興推進協議会) 商工会関連補助金を活用し販促、広告宣伝等実施 ○栗暮プロジェクト 1,711千円 ・栗園モデル事業、苗木補助、平場新植推進 【商工分野】 ○道の駅よつて西土佐での商品開発推進 (実施主体：(株)西土佐ふるさと市) ○新食肉センター整備推進事業 【再掲】 450千円 ・基本設計実施予定 (補正予算対応予定) ・都市計画決定用図面作成業務 ・家屋事前調査業務 ・新食肉センター整備検討会3回程度 (60千円) ・先進地視察等 (240千円)
【連携AP4】					
(2) 四万十ヒノキ製の商品力強化					
<ul style="list-style-type: none"> ○四万十ヒノキのブランド化の推進 《林業18》 ○木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化 《林業12、19》 	<ul style="list-style-type: none"> ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 【再掲】 宿泊者:34組、延べ159名 見学者:85名 (12月末現在) ○四万十ヒノキブランド化推進協議会 ・強度測定試験の実施 (全国ヒノキより優れていることをパンフレットでPR) ・80ヒノキ (大口径ヒノキ) 付加価値化の検討等 ○協働の森づくり (2企業:体験交流、四万十ヒノキPR) 10~11月 間伐体験:(株)清流メンテナンス、浅野アタカ(株) ※日鉄エンジニアリング(株)はコロナ禍のためR2は辞退 	四万十市 (農林水産課) 森林組合 四万十ヒノキブランド化推進協議会 製材加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆木材・木製品製造品出荷額等 H29:8億496万円 → R6:9億円 H30:8億3,748万円 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「四万十ヒノキ」としての知名度が向上し、ヒノキ製品の生産が拡大している 	<ul style="list-style-type: none"> 【林業分野】 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 【再掲】 【318千円】 ・「四万十ヒノキの家」で見学、宿泊体験実施 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 【再掲】 【200千円】 ・森林環境学習フェアへ出展PR予定 ○フェア等の開催 【再掲】 ・「幡多山もりフェス2021」の開催 ○協働の森づくり 335千円 ・3企業:体験交流、四万十ヒノキPR
【連携AP5】					
(3) 水産物の高付加価値化					
<ul style="list-style-type: none"> ○品質管理の向上 《水産9》 ○商品力の強化 《水産9》 ○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携10、水産10》 ○新たな商品の企画・開発の支援 《水産10》 	<ul style="list-style-type: none"> ○生産工程マニュアルによるアオサ、スジアオノリの生産工程の均一化と品質管理を継続 (実施主体：四万十川下流漁業協同組合) 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 漁業協同組合 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆一次産品等を活かした新商品の開発 (農畜産物加工品以外を含む) H30:117アイテム → R6:307アイテム/5年 H31:127アイテム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆安定した品質が確保され、販売額の増加につながっている 	

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
連携分野 【連携AP6】 (4) 地域資源を活かした商品開発	<ul style="list-style-type: none"> ○事業者や地域グループ等の人材育成《連携8、商工5》 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり《商工2、16》 ○事業者間のマッチング機会の創出《商工2》 ○テストマーケティング《商工1》 ○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化《商工1》 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援《商工3》 ○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発《商工AP16》 <ul style="list-style-type: none"> ○地域おこし協力隊事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興関係3名配置 (富山、奥屋内、大宮地区) ・中心市街地活性化1名、まちなか景観形成1名配置 10/1~ ・産業振興関係1名配置 (西土佐農業公社) 11/1~ ○地域グループとの意見交換会等 <ul style="list-style-type: none"> ・大川筋地区：地域農産物(桑のハ、イドリ)等の外販状況協議、大川筋美楽来の商品検討 ○西土佐地域産業振興推進協議会 (アツいまちサミットコラボ事業) 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・西土佐地域13店舗で米ナスの新メニューを開発 ・新メニュー「米ナスドッグ」の開発 (リバー・キューブプロジェクトと連携) ○販売力パワーアップ事業費補助金 (新型コロナ対策事業) <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ECサイト等の作成及び改修 ・商品開発及び商品改良等販売促進 ・商談会、物産展等への出展 交付決定件数34件 (21,808千円) <p style="text-align: center;">地方創生臨時交付金を活用</p>	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆一次産品等を活かした新商品の開発 H30:11747M → R6:30747M/5年 H31:12747M	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業者間や地域で協働した商品開発、販路開拓等の取組みが円滑に推進されている 	<ul style="list-style-type: none"> 【農業分野】 ○地域おこし協力隊 (農業振興:西土佐1名) 3,643千円 ○地域おこし協力隊 (農業振興:中村1名) 3,040千円 ○地域おこし協力隊 (ぶしゅかん:中村1名) 【再掲】 【3,833千円】 【商工業分野】 ○幡多広域地産外商推進協議会負担金 50千円 <ul style="list-style-type: none"> ・幡多6市町村共同による外商活動を展開 ○地域おこし協力隊経費 (地域振興5名) 18,264千円 <ul style="list-style-type: none"> (中村地域) 富山、大川筋・後川地区 (西土佐地域) 須崎、大宮、奥屋内地区 ○特産品等販売促進事業 (商談会出展) 2,668千円 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模商談会へ出展支援 (1,534千円) 第5回ライフスタイルWeek、雑貨EXPO春 ・産地視察型現地商談会の実施 (483千円) 地方創生包括連携協定 (第一勧信、宿毛商銀) ・市内特産品販売促進のため、大規模商談会へ出展支援 (651千円) <p style="text-align: center;">れんけいこうちを活用</p> ゲルメタインクスタイルショー秋2021、ビジネスフェア中四国2021、まるごとにつぼん出展
【連携AP7】 (5) 滞在型の観光商品づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○滞在型の観光地づくり (実施主体：四万十市観光協会) <ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり 観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向調査 (4月~) 観光動向アンケート調査 (5月中止、8月沈下橋など) レンタサイクルと観光遊覧船のお得セット造成 ウェブサイト「四万十の小さな旅くねくね」周遊コース造成 広域観光クラスター整備計画 (SDGs) 2月 四万十川観光PR事業「四万十川花火~小さな春の訪れ~」 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (実施主体：幡多広域観光協議会) <ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアー受入：一般旅行モニターツアー (とさでんトラベルなど6回)、OATAモニターツアー (18社)、教育旅行モニターツアー (4社) ・教育旅行受入 (16校) ・高知県観光説明会 (高知) (11社) ・四国DC全国宣伝販売促進会議商談会 (7社) ・観光PRブース ・ツーリズムEXPO (オンライン商談会2社) ・クルーズ船モニターツアー・オプションツアー商談会 (3社) ・「Visit Shikoku Travel Mart2020」 (2月オンライン開催) ・国立公園でのワーケーション推進事業ファミトリップ (インフルエンサー3名) ・全国ほんもの体験ネットワーク総会 ・はた旅クーポン事業 (新型コロナ対策事業) <p style="text-align: center;">地方創生推進交付金を活用</p> <p style="text-align: center;">地方創生臨時交付金を活用</p> クーポン券5,000円×幡多1万泊 (市内3,977泊分) 有効期限:8/1~1/31 1月末までクーポン券市内利用実績:43,564枚 (1枚500円券) ○四国デスティネーションキャンペーン 2021.10.1~12.31開催予定 (実施主体:JR四国) ・11/11 四国DCエキスカッション受入 (10社) ○四国西南サミット観光部会 ・新足摺海洋館「SATOUMI」開館記念イベント出展7/18、19 (四国西南9市町村参加)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 観光協会 四万十市観光振興連絡協議会 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会 幡多広域観光協議会 予土県境地域連携実行委員会 四万十川流域市町村観光振興連絡会 四国西南地域観光連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ◆広域における一般観光客数 H30:118万466人 → R6:64,500人増 H31:1,194,938人 <ul style="list-style-type: none"> ◆広域におけるスポーツ客数 H30:17万8,977人 → R6:12,200人増 H31:18万2,587人	<ul style="list-style-type: none"> ◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している ◆広域組織における5つの機能 <ol style="list-style-type: none"> ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 R6:強化	<ul style="list-style-type: none"> 【観光分野】 ○観光案内所運営補助金 (四万十市観光協会) 7,200千円 <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向等 ○観光客誘致宣伝活動 3,741千円 <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行、一般旅行の国内誘致活動 (328千円) ・四万十市観光ガイドブック等作成 (2,657千円) ・観光パンフレット送付 (67千円) ・リピーターバッジ作成他 (689千円) ○ONSEN・ガストロノミーウォーキング 800千円 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金 1,450千円 <ul style="list-style-type: none"> (実施主体:四万十市観光振興連絡会議) ・花と食をテーマとした観光イベント (四万十川花紀行等) の開催、検証等 ○四万十市体験型観光受入研究会 48千円 <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか ○幡多広域観光協議会負担金 12,549千円 <ul style="list-style-type: none"> (事業主体:幡多広域観光協議会) <p style="text-align: center;">地方創生推進交付金を活用</p> 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主要な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
連携分野	<ul style="list-style-type: none"> ○西土佐地域産業振興推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・6回の協議会開催 ○しまんとリバーベキュープロジェクト (R02.4.6設立) 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> 設立総会 (4月)、SCAクッキング・ジャッジクラス講習会 (8月)、BBQジャンプ・しまんと SCAA ステージ&鮎の塩焼きコンテスト (8月)、商品開発ワークショップ (9~12月:計3回)、JBBQA初級・中級検定 (10~11月)、BBQトレードショーへの出展 (3月)、関係団体との事業協議、先進地研修など ○スポーツツーリズム <ul style="list-style-type: none"> 7月 ソフトボール大会誘致活動 8月 高知ファイティングドックス公式戦 (四万十スタジアム) ・R3ソフトボール一般男子西日本大会誘致活動 (開催決定:R03.11.13~14) 11/9大会受入の打合せ (観光協会・幡多広域観光協議会、スポーツ協会、四万十市) ○四万十市クーポン事業 (新型コロナ対策事業) <ul style="list-style-type: none"> 登録数 提携宿泊施設:32 クーポン券取扱店:298 1月~ クーポン券配布 (5,000円×市内2万泊) 				<ul style="list-style-type: none"> ○自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会 10千円 ○西土佐地域産業振興推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・食や観光資源を活用した地域活性化 ・西土佐地域を巡るツアー実施 (2月)
2. 情報発信と販路開拓・拡大					
【連携AP8】 (1) 地域産品の発信と販路開拓・拡大					
<ul style="list-style-type: none"> ◎産業間連携や広域連携による外商活動等 <ul style="list-style-type: none"> 《農業17、林業15、水産12、商工4、8、観光7》 ○商談会等販路開拓・拡大の支援 <ul style="list-style-type: none"> 《農業17、水産12、商工4》 ○一元的な情報発信の促進 <ul style="list-style-type: none"> 《連携9、11、商工4、7、観光7、10》 ○地域の人、もの、コトの発信 <ul style="list-style-type: none"> 《商工17》 ○事業者や地域グループ等の人材育成 <ul style="list-style-type: none"> 《連携6、商工AP5》 ○有機農産物の流通促進 <ul style="list-style-type: none"> 《連携1、農業18》 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化 <ul style="list-style-type: none"> 《林業20》 ○漁協の販売機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> 《連携1、水産AP11》 ○水産物・水産加工品のブランディングの構築と発信 <ul style="list-style-type: none"> 《水産12》 ◎新たな拠点 (旧土佐銀行跡地) による情報発信の強化と賑わいの創出 <ul style="list-style-type: none"> 《連携2、商工10》 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充 <ul style="list-style-type: none"> 《連携2、農業15、商工18》 	<ul style="list-style-type: none"> ○地産外商活動 (新型コロナの影響で減少) <ul style="list-style-type: none"> 4~3月 松山大道道にで外商活動40回 (西土佐ふるさと市) 6月~ 天然鮎の高付加価値化 活鮎の豊洲市場出荷 (あゆ市場) 6~11月 七駅物語プラス1スイーツ街道実施 (スタッフリ-、愛媛県道の駅との連携) 10月 高知もくもくエコランド2019森林環境学習フェア 11月 フェスティバル土佐ふるさとまつり (西土佐ふるさと市、あゆ市場など) ○リバーベキュープロジェクトをPR <ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューをコンテンツとして地域をHPでPR ○幡多広域地産外商協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・物産PR等継続事業、都市圏等の物産PR等継続事業の実施 ○特産品販売促進事業 (商談会出展) <ul style="list-style-type: none"> 地方創生推進交付金を活用 1月 ライフスタイルweek春 雑貨EXPO (1事業者出展) ※1事業者はコロナ見送り ○シティプロモーション推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 地方創生推進交付金を活用 ・ふるさと納税返礼品にPRシールを貼付 (19,000枚) ・市内公共施設等に市ロゴマークを貼付 (4箇所) ○地域グループとの意見交換会等 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・大川筋地区:地域農産物 (桑のハ、イドリ) 等の外販状況協議、大川筋美楽来の商品検討 ○四万十鮎ブランド化 <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会の設置準備 (四万十川漁業振興協議会) ・鮎の活用、自然保護について県知事に提言書を提出 ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金 2,435千円 4月1日 「Shimanto+Terrace はれのば」オープン 毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 10月 中心商店街活性化協議会開催 <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の配置 (1名 中心市街地活性化) ・活性化イベント実施 (10月~12月) ・はれのばPR動画配信 (10月~) ・「GOOD DESIGN AWARD2020」グッドデザイン賞受賞 (10月) ・「日本空間デザイン賞2020」銅賞受賞 (10月) 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商談会等での成約率 H30:20.8% → R6:25% H31:30.3%	◆産業間が連携し、多様な外商活動が展開されている ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、地域産品の販売促進につながっている	【農業分野】 ○地域おこし協力隊 (農業振興:西土佐1名) 【再掲】 【3,643千円】 ○地域おこし協力隊 (農業振興:中村1名) 【再掲】 【3,040千円】 ○地域おこし協力隊 (ぶしゅかん:中村1名) 【再掲】 【3,833千円】 【林業分野】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 【再掲】 【200千円】 【商工業分野】 ○特産品等販売促進事業 (商談会出展) 【再掲】 【2,668千円】 ・大規模商談会へ出展支援 (1,534千円) ・産地視察型現地商談会の実施 (483千円) ・市内特産品販売促進のため、大規模商談会へ出展支援 (651千円) れんけいこうちを活用 ○地域産品販売促進事業費補助金 【再掲】 【10,000千円】 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 ○枚方市・四万十市友好都市推進協議会補助金 400千円 ・枚方物産展への出展ほか ○幡多広域地産外商推進協議会負担金 【再掲】 【50千円】 ○地産外商促進事業 (西土佐地域出店関係) 【再掲】 【692千円】 ・ふるさとまつり、枚方物産展、大丸フェア、ピ-ルトロッコ ○西土佐地域産業振興推進協議会 【再掲】 - ・食や観光資源を活用した地域活性化 ○地域おこし協力隊経費 【再掲】 ・中心市街地活性化1名 【4,330千円】 ・まちなか景観形成1名 【4,400千円】 ○地域おこし協力隊経費 (地域振興5名) 【再掲】 【18,264千円】

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
連携分野 【連携AP9】 (2)観光商品のセールス・情報発信					
<ul style="list-style-type: none"> ○広域連携によるキャンペーンの展開 《観光5》 ○営業力のある人材、組織の育成 《観光6》 ○旅行会社への営業活動の促進 《観光6》 ○旅行商品商談会等への出席 《観光6》 ○海外への営業活動の促進 《観光6》 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化 《観光7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、11、商工4、7、観光7、10》 ○ターゲットに合わせたプロモーションの展開 《観光7》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動 《連携11、観光7》 	<ul style="list-style-type: none"> ○四国西南地域観光連絡協議会 パンフレット「四国西南の旅」作成、配布 ○四万十川流域市町村観光振興連絡会 流域市町村観光パンフレット・ポスター作成 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・モニターツアー受入：一般旅行モニターツアー（とさでんトラベルなど6回）、OATAモニターツアー（18社）、教育旅行モニターツアー（4社） ・教育旅行受入（16校） ・高知県観光説明会（高知）（11社） ・四国DC全国宣伝販売促進会議商談会（7社）・観光PRブース ・ツーリズムEXPO（オンライン商談会2社） ・クルーズ船モニターツアー・オプションツアー商談会（3社） ・「Visit Shikoku Travel Mart2020」（2月オンライン開催） ・国立公園でのワーケーション推進事業ファミトリップ（インフルエンサー3名） ・全国ほんもの体験ネットワーク総会 ・はた旅クーポン事業（新型コロナ対策事業） 地方創生臨時交付金を活用 クーポン券5,000円×幡多1万泊（市内3,977泊分）有効期限：8/1～1/31 1月末までクーポン券市内利用実績：43,564枚（1枚500円券） ○滞在型の観光地づくり（実施主体：四万十市観光協会）【再掲】 ・広域連携による周遊観光の推進 自然体験型キャンプ事業（泊まって遊ぼうクーポン）、Enjoy!はた旅クーポンキャンペーンの窓口業務、広域観光クラスター整備計画（SDGs） 修学旅行（レンタサイクル受入：10月31台、11月60台、12月22台） ・観光商品のセールス及び情報発信の強化 デジタルパンフレットの作成、Instagramのライブ配信（花紀行・飲食店・テイクアウトなど40回） フェイスブックの掲載内容充実（発信60回）、YouTubeチャンネル更新（発信5回）、 広域観光クラスター整備計画（SDGs） 2月 四万十川観光PR事業「四万十川花火～小さな春の訪れ～」 ○観光大使設置事業（現在23名） ・観光大使イベント情報等の情報発信依頼、市特産品を贈呈しPRを強化 ・新規委嘱1名（岡本友章氏）11/21世界野球ソフトボール連盟殿堂入記念祝賀会にて委嘱 ・三山ひろし「四万十川」自動演奏装置設置 完成除幕式10/4 ○予土県境地域連携実行委員会 ・予土県境サイクルツーリズムのPR（映像制作・放映） ○西土佐地域産業振興推進協議会（年6回開催）【再掲】 ○シティプロモーション推進事業【再掲】 地方創生推進交付金を活用 ・ふるさと納税返礼品にPRシールを貼付（19,000枚） ・市内公共施設等に市ロゴマークを貼付（4箇所程度） ○リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～関連（H31.2開幕～R3.2閉幕） ・4月～川バス・7月～市内循環（四万十トrolley）バスの運行 ・四万十川カヌー川下り映像制作、観光ガイドミーティング（6回）、アクティビティ3施設合同パンフレット作成 	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆観光協会ホームページアクセス数 H30:189,053件 → R6:200,000件 H31:229,214件 R2:162,843件	◆観光人材・組織のスキル（商品企画、営業力等）が向上し、観光誘客が増加している。 ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、観光誘客につながっている	【観光分野】 ○幡多広域観光協議会負担金【再掲】 【12,549千円】 (事業主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開 ○予土県境地域連携実行委員会負担金 550千円 ・サイクリングを核とした観光振興連携事業ほか ○四万十川流域市町村観光振興連絡会負担金 542千円 ・流域周遊促進にかかる事業ほか ○四国西南地域観光連絡協議会負担金 40千円 ・パンフレット作成ほか ○観光客誘致宣伝活動【再掲】 【3,741千円】 ・教育旅行、一般旅行の国内誘致活動（328千円） ・四万十市観光ガイドブック等作成（2,657千円） ・観光パンフレット送付（67千円） ・リピーターバッジ作成他（689千円） ○観光大使設置事業 868千円 ・国内外への幅広い情報発信力を活かした広報活動を展開（R3年度委嘱予定：4名程度） ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 ・西土佐地域を巡るツアー実施（2月）

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	R2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
連携分野					
3. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信					
【連携AP10】					
(1) “食”文化の磨き上げ					
<ul style="list-style-type: none"> ○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ 《商工6》 ○塩たたきのブランド化の推進 《商工6》 ○魚食文化の磨き上げ 《水産13》 ○未利用資源等の掘起しと活用 《連携5、水産10》 	<ul style="list-style-type: none"> ○塩たたき提供店舗 (39店舗) による塩たたきの普及 ○しまんとリバーベキュープロジェクト (R02.4.6設立) 【再掲】 BBQジャンボリーしまんと SCAA ステーキ&鮎の塩焼きコンテスト (8月) 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者		◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や観光誘客などの拡大につながっている	
【連携AP11】					
(2) “食”の発信					
<ul style="list-style-type: none"> ○食の魅力を活かした観光地づくり 《観光4》 ★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売 《観光4》 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充 《水産14、商工7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、9、商工4、7、観光7、10》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動 《連携9、観光7》 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動 《商工8》 	<ul style="list-style-type: none"> ○食の発信・普及イベント等 (新型コロナの影響により減少) 【再掲】 6~11月 七駅物語プロジェクト実施 (スナプラー、愛媛県道の駅と連携) 10月 よって! 四万十おしんぼまつり 2月 四万十川花紀行「菜の花」まつり 3月 OONSEN・ガストロノミーリズム 地方創生推進交付金を活用 ○予土県境地域連携実行委員会 【再掲】 ・予土県境サイクルツーリズムのPR (映像制作・放映) ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【再掲】 (実施主体: 幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・モニターツアー受入: 一般旅行モニターツアー (とさでんトラベルなど6回)、OATAモニターツアー (18社)、教育旅行モニターツアー (4社) ・教育旅行受入 (16校) ・高知県観光説明会 (高知) (11社) ・四国DC全国宣伝販売促進会議商談会 (7社)・観光PRブース ・ツーリズムEXPO (オンライン商談会2社) ・クルーズ船モニターツアー・オプションツアー商談会 (3社) ・「Visit Shikoku Travel Mart2020」 (2月オンライン開催) ・国立公園でのワーケーション推進事業ファミトリップ (インフルエンサー3名) ・全国ほんもの体験ネットワーク総会 ・はた旅クーポン事業 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 クーポン券5,000円×幡多1万泊 (市内3,977泊分) 有効期限: 8/1~1/31 1月末までクーポン券市内利用実績: 43,564枚 (1枚500円券) ○しまんとリバーベキュープロジェクト (R02.4.6設立) 【再掲】 日本バーベキュー協会講演会、SCAクッキング・ジャッジクラス講習会、BBQジャンボリーしまんと SCAA ステーキ&鮎の塩焼きコンテスト、BBQジャンボリーしまんとアターパーティー (8月)、コミュニケーションツール等作成 (8月)、JBBQA初級・中級検定 (10~11月)、BBQトレードショーへの出展 (3月)、関係団体との事業協議、先進地研修、四万十川天然鮎の焼き方映像配信など 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆県内平均消費額 (四万十川) H29: 28,869円 → R6: 33,000円 H30: 27,459円 ◆商店街通行者数 (平日) H27~H30平均: 5,338人/日 → R6: 6,200人/日 H31: 5,607人/日 ◆産業祭来場者数 H30: 20,000人 → R6: 40,000人/5年 H31: 3,000人 R2: 中止 	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や市街地への人の回遊につながっている	<ul style="list-style-type: none"> 【商工業分野】 ○地産外商促進事業 (西土佐地域出店関係) 【再掲】 【692千円】 ・ふるさとまつり、枚方物産展、大丸フェア、ピットロコ 【観光分野】 ○ONSEN・ガストロノミーウォーキング 【再掲】 【800千円】 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金 【再掲】 【1,450千円】 (実施主体: 四万十市観光振興連絡会議) ・花と食をテーマとした観光イベント (四万十川花紀行等) の開催、検証等 ○幡多広域観光協議会負担金 【再掲】 【12,549千円】 (事業主体: 幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
農業分野	1 産地としての維持・強化					
	1. 戦略品目の生産拡大					
	【農業:AP1】 (1)ぶしゅかんの産地づくり					
	◎生産量の拡大と産地化の推進	○ぶしゅかん産地化推進事業委託【再掲】 (実施主体: 四万十ぶしゅかん生産者組合) 地方創生推進交付金を活用 4月~ ぶしゅかんの栽培管理、普及等 ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 地方創生推進交付金を活用 10月~ 新規定植(苗代補助)2,000本 400a(予算^ース) 有害鳥獣対策用防護柵 1,500m(設置費補助)(予算^ース) ○ぶしゅかん集出荷事業(四万十ぶしゅかん生産者組合) 8~10月 集出荷支援 ※収穫は多機能事業所「アオ」と連携 ○40010日プロジェクトロゴの活用拡大(果樹等を追加商標登録に係る出願) ○ぶしゅかん栽培現地検討会【再掲】 4月~ 栽培管理指導、巡回指導 ○ぶしゅかん栽培基準検討会(四万十ぶしゅかん生産者組合)【再掲】 ・農業等の栽培基準の制定など協議	四万十市 (農林水産課・観光商工課) 生産者 事業者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t H31:21.2t R2:26.7t	○ぶしゅかん普及推進事業【再掲】 【1,013千円】 ・新規定植(苗代への補助) 1,000本 200a ・有害鳥獣対策用防護柵(設置費補助) 750m ・産地化推進事業業務委託 ・都市圏等でのぶしゅかんブランド「インク」キャンペーンの展開 ○ぶしゅかん産地化推進計画の策定【再掲】 - ・目標栽培面積・生産量、青玉の流通(選果体制) ○地理的表示保護制度(GI)登録への調査研究【再掲】 - ※地域で育まれた農産物の伝統と品質基準を守る証 (国が地域の特産品の「名称」を知的財産として保護) ○四万十ぶしゅかん(株)を主体に各種商談会、展示会、 物産展等での販路開拓・販売促進活動を展開【再掲】 - ○40010日プロジェクトにぶしゅかんを追加登録【再掲】 【262千円】	
	【農業AP2】 (2)ゆずの産地化促進					
	○生産性の向上 ○隔年結果の低減や青果率、秀品率の向上	○ゆずの生産性の向上 ・ゆず反省会(5月)、ゆず現地検討会(6月)、青玉ゆず目慣らし会(7月) ・冬至用・平箱ゆず出荷目慣らし会(10月)、選定講習会(2月) ○ゆずの生産性の向上	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 生産者、事業者	◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha H31:44.0ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均431.5t/年 →R6:445t H31:432.0t	○高知県ゆず振興対策協議会負担金 31千円 ○剪定、誘引指導の実施 - ○目慣らし会、出荷販売検討会(JA高知県中村支所) - ○「四万十ゆず」の地域団体商標登録に向けた取組 みの推進(JA高知県中村支所) -	
	【農業AP3】 (3)栗の産地再生					
	◎栗園の再生	○栗暮プロジェクト 地方創生推進交付金を活用 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換(栗園へ転換) 1.56ha ・苗木補助1,000本(見込み) ○栗等の集出荷(西土佐地域) (実施主体: 高知県農業協同組合、しまんと美野里) ・高知県農業協同組合: 栗を含め地域振興作物の集出荷を実施 ・しまんと美野里: 栗の集出荷を実施 ○地域営農支援事業 ・農業公社へ充電式剪定ハサミ導入(栗剪定用)	四万十市 (産業建設課) JA高知県 生産者 事業者	◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha H31:49.2ha ◆栗生産量 H27-H30 平均23.5t/年 → R6:60t H31:19.6t	○栗暮プロジェクト【再掲】 【1,711千円】 ・栗園モデル事業 ・産地化促進補助(苗木補助) ・水田転換推進事業(平場新植推進) ○園芸作物等の集出荷を継続実施 (JA高知県西土佐支所、(株)しまんと美野里) -	
	【農業:AP4】 (4)米ナスの振興					
	★生産量の拡大と産地化促進 ★地元での認知度向上及びブランド力の向上	○西土佐地域産業振興推進協議会(アツいまちサミットコラボ事業)【再掲】 ・米ナスのPRポスター作成、新メニュー開発セミナー ・米ナススタンプラリー(8月中、西土佐地域13店舗参加) ・新メニュー「米ナスドッグ」の開発	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 生産者 事業者	◆米ナス栽培面積 H30:504a → R6:490a H31:421a ◆米ナス生産量 H30:260t → R6:359t H31:277.5t	○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 【1,500千円】 (西土佐地域産業振興推進協議会) ※商工会関連補助金を活用 ・販促資材作成、販路開拓、広告宣伝等	
	【農業:AP5】 (5)有望品目の産地強化					
	○地域に根づいた有望品目による産地の育成・強化 ○新規品目導入の支援 ★新規品目「わさび」の栽培実用化に向けた取組み ○野菜価格安定制度による経営支援	○レンタルハウス整備事業(実施主体: 高知県農業協同組合) ・新規就農区分2件、規模拡大区分1件 ○園芸ハウス整備事業 ・7件(ピーマン、大葉、イチゴ、生姜、ミョウガ) ○燃料タンク対策事業(実施主体: 高知県農業協同組合) タンク整備着工(9月)、タンク整備完了(11月) ○ショウガ実証栽培 農業公社でのショウガの実証栽培(幡多地域振興作物)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 集落営農組織 生産者	◆有望品目の安定生産や新規品目が地域内で定着し、安定した農業経営につながっている	○レンタルハウス整備事業(規模拡大4件) 28,399千円 ○園芸ハウス整備事業(ハウスの修繕7件) 1,865千円 ○燃料タンク対策事業 2,166千円 ・流出防止付タンク及び防油堤の整備: 2基分 ○新規作物導入試作支援事業(西土佐農業公社等) - ・栽培実証及び販売促進等を支援 ○わさび栽培実証実験事業 2,648千円 ・わさび栽培協議会負担金、栽培実証試験継続	

分野		令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
農業分野		○わさび実証実験事業 (実施主体:四万十市わさび栽培協議会) ・わさびの栽培管理、2作目の定植 ・1作目のわさびの食味等アンケート調査実施 (1~2月) ○野菜価格安定事業 (中村地域) (実施主体:四万十市中村野菜価格安定基金協会) 5月に給付 (前年度分) H31年度実績 わさ:1,075千円、シソ:24千円、かぼ:104千円 ○園芸作物価格安定事業 (西土佐地域) (実施主体:園芸作物価格安定基金評議会) 1月 評議会 (書面会議) を開催 (4月以降補給金支払)				○野菜価格安定事業 (基金協会負担金) 1,000千円 ・補給金:2,000千円 (市1,000千円、JA1,000千円) ○野菜価格安定事業 (市事業分) 2,000千円 中村地域のみ 市・JA・生産者 1/3負担 対象品目:オクラ・シシトウ・ナバナ ○園芸作物価格安定事業 (特別会計) 28,250千円 (実施主体:園芸作物価格安定基金評議会)
2. 生産性の高い栽培技術の導入						
【農業:AP6】 (1) 学び教えあえる場づくり						
○学び教えあう場づくり	○農業基礎講座 県農業振興センターを主体とし、農業研修生を対象に基礎講座を実施 (栽培技術、就業計画、制度資金、農業適正使用、経営管理等) 6~11月 農業基礎講座実施 (全6回) ○JA選果場における目慣らし会の実施 (随時) ○地域内農家による巡回指導 (随時) ・農家による四万十農園めぐりっこ研修生への訪問指導	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 四万十農園めぐりっこ 西土佐農業公社 生産者	◆講座等を通じて、営農に不可欠な栽培技術や経営感覚が習得され、持続的な農業経営が実践されている ◆新規就農者等と篤農家との交流が促進され、情報収集や就農後の相談体制収集や就農後の相談体制等ネットワークが構築されている	○農業基礎講座 (県農業振興センター主体) ・農業研修生を対象に年6回程度実施予定 ○JA選果場における目慣らし会の実施 ○地域内農家による巡回指導 ・農家による四万十農園めぐりっこ研修生への訪問指導		
【農業:AP7】 (2) 環境保全型農業の推進						
○環境保全型農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業 ・堆肥等有機物利用促進 4~1月実績:11件 (中村5件、西土佐6件) ○環境保全型農業直接支払交付金事業 ・取組面積:3,065a 有機農業2,959a (中村)、カバークローブ106a (西土佐)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆環境保全型農業直接支払事業参加経営面積 H30:21.4ha → R6:25ha H31:25.8ha、R2:30.7ha ◆環境保全型農業推進事業実施経営体数 H30:21戸 → R6:20戸を維持 H31:15戸、R2:1戸	◆四万十川のブランドイメージにマッチした環境保全型農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている	○有機農業等総合支援事業 190千円 ・市内産畜産堆肥購入、たい肥散布 補助率1/3 ○環境保全型農業直接支払交付金事業 (事務費含む) 4,759千円 ・3団体 取組面積:3,431a ○環境保全型農業推進事業 14千円 ・JA高知県西土佐支所伊予部会1戸、19a	
【農業:AP8】 (3) 先端技術を活用した園芸施設や園芸システム等の普及推進						
◎次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・事業者、高知県、農業公社など関係機関にて随時協議 ○高知県スマート農業推進事業費補助金 ・稲作防除用のドローンを導入 (山路、森沢地区の組織)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30:0社 → R6:1社 H31:0社			
3. 集落営農の推進						
【農業:AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援						
○組織化に向けた取組みの推進 ★組織の広域連携の推進 ○フォローアップ体制の充実・強化	○組織化、法人化への誘導支援 ・大宮地区と組織化へ向けた協議 ・黒尊川営農組合と法人化へ向けた協議 ○既存組織へのフォローアップ ・組織別座談会 東富山を守る会協議10回、四万十利岡FARM協議11回、(農)入田村協議3回 (農)わらびおか協議3回、三里営農組合協議5回 (R3.1時点) 集落営農組織連絡協議会 (11月 中村地域:集落営農広域化の取り組み検討) ・地元住民との交流:小学校児童との稲刈り (10月 若藤営農組合・利岡小学校) ・組織設立:楠島めぐり集落営農組合 (1月) ・法人化:農事組合法人いーすとみやま(12月)、農事組合法人三里営農組合(2月)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 集落営農組織	◆集落営農組織数 H30:31組織 →R6:31組織を維持 H31:31組織 R2:31組織 ◆農業経営を行う法人数 H30:4法人→R6:8法人 H31:5法人 R2:7法人		○組織化への誘導 ・地区座談会、集落営農研究会 (年1回程度) ○既存組織へのフォローアップ ・集落営農組織連絡協議会 (年2回程度) ・組織別座談会 ・地元住民との交流 児童との田植えや稲刈り (若藤営農組合・利岡小) ○集落営農支援事業 (ソフト事業) 340千円 ・先進地視察 (組織化への誘導、既存組織へのフォローアップ・支援)	
【農業:AP10】 (2) こうち型集落営農の実践						
○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援	○集落営農支援事業 (ソフト事業) ・農事組合法人入田村:雇用確保支援120千円 (国の農の雇用事業) ○集落営農支援事業 (ハード事業) 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ・農事組合法人四万十利岡FARM:トラクター (3,252千円)、畦塗機 (411千円)、ウイングロー (693千円)、田植機 (1,471千円)、播種機・育苗器 (524千円)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 集落営農組織 JA高知県 生産者	◆収益性の高い品目を導入する組織が育成されている	○集落営農支援事業 (ハード事業) 23,322千円 組織に対する農業用機械、施設整備の助成 ・農事組合法人四万十利岡FARM、農事組合法人入田村、農事組合法人いーすとみやま、農事組合法人わらびおか、にしとさすき営農組合		

分野		令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主要内容						
農業分野		<ul style="list-style-type: none"> 農事組合法人わらびおか：畦塗機 (741千円) 農事組合法人田野川甲宮農組合：農業用倉庫 (3,583千円) 農事組合法人入田村：フレキシブルコンテナ計量機 (794千円) 三里宮農組合：トラクター (3,296千円)、畦塗機 (535千円)、ウイングハロー (582千円) にしとさすさき宮農組合：色彩選別機1式 (983千円) 				<ul style="list-style-type: none"> ○営農活動の持続・拡充に向けた取り組み支援の継続 360千円 ・組織が農の雇用事業を活用した場合の助成 農事組合法人入田村雇用確保支援2名
4. 生産・出荷支援システムの構築						
【農業:AP11】 (1) 農作業支援体制の充実						
○農作業支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○農作業支援隊による農業労働力確保事業 (高知県農業協同組合) ・農作業支援 堆肥散布:374t、作業支援:10件 (R3.1現在) WCS収穫、梱包:3,892a 育苗:プロッコリ-474枚、ニ58,037枚 ○農作業支援体制の整備 ・無料職業紹介所 求職者:39件、求人:16件、マッチング:26件 (R3.1現在) ・周知活動 通年:市役所2階図書館入口に募集ポップの設置 随時:PR強化 (JA広報、折込) 	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 西土佐農業公社	◆無料職業紹介所紹介件数 H30:82件 → R6:180件 H31:97件		<ul style="list-style-type: none"> ○無料職業紹介 (JA高知県) ・幡東、北幡地域で無料職業相談所運営を継続 ○労働力確保 (JA高知県) ・労働力確保対策チーム会 (仮称) の設置 ・JA出荷場での労働力確保を皮切りにした取り組みの開始 ・農福連携の可能性の模索、マッチング 	
【農業:AP12】 (2) 集出荷支援体制の充実						
○集出荷拠点施設の運営及び集出荷支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶしゅかん集出荷事業 (実施主体:四万十ぶしゅかん生産者組合) 8~10月 集出荷支援 ※収穫は多機能事業所「アオ」と連携 ○農産物の集出荷 東富山を守る会、JA高知県西土佐支所、しまんと美野里、西土佐ふるさと市 	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県、生産者 大川筋振興組合 東富山を守る会	◆生産・出荷支援システム 取組件数 H30:5件 → R6:5件を維持 H31:5件、R2:5件		<ul style="list-style-type: none"> ○農産物の集出荷や生活支援を継続実施 (実施主体:富山地域) ・中山間直接支払制度を活用 ○園芸作物等の集出荷を継続実施【再掲】 (実施主体:JA高知県西土佐支所 他) 	
【農業:AP13】 (3) 地域内農業者の共同生産体制の構築						
★共同生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○西土佐地域での共同生産体制の構築 米ナス共同選果へむけた協議 	四万十市 (産業建設課) JA高知県、生産者		◆生産技術を有する者がリーダーとなり共同生産を行うグループが結成され、出荷・販売が行なわれている		<ul style="list-style-type: none"> ○西土佐地域での共同生産体制の構築 JAにおいて米ナス共同選果試験実施
2 地元農畜産物の利用・販売促進						
1. 地元農畜産物の利用促進						
【農業:AP14】 (1) 地元消費拡大に向けた取組みの強化	主要内容 ○公共施設での利用促進、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1 ○市内量販店等を拠点とした販路拡大⇒ 連携AP2					
【農業:AP15】 (2) 直販機能の強化	主要内容 ◎直販所機能の強化⇒ 連携AP2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP2、連携AP8					
2. ブランド化の確立と販売促進						
【農業:AP16】 (1) ブランド化の推進	主要内容 ○戦略品目のブランド化、◎40010日プロジェクト、★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進、★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP3					
【農業:AP17】 (2) 地元農畜産物を使った商品の開発・販売	主要内容 ○地元農畜産物を使った商品の開発、○意欲的な生産者への支援⇒ 連携AP3 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP8					
3. 有機農業の推進						
【農業:AP18】 (1) 有機農産物の販路開拓・拡大	主要内容 ○有機農産物の流通促進⇒ 連携AP1、連携AP8 ○公共施設での利用促進⇒ 連携AP1					
【農業:AP19】 (2) 有機農業の普及・啓発活動の推進						
○有機農業の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○有機農業等総合支援事業【再掲】 ・堆肥等有機物利用促進 4~1月 実績11件(中村5件、西土佐6件) 	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 地産地消推進団体 生産者	◆有機農業等総合支援事業 実施面積 H30:6.0ha → R6:6.0haを維持	◆四万十川のブランドイメージにマッチした有機農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている		<ul style="list-style-type: none"> ○有機農業等総合支援事業【再掲】 【190千円】 ○環境にやさしい農業のための研究会との連携

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見る形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
農業分野					
3 担い手の確保・育成					
1. 新規就農者の確保・育成					
【農業:AP20】					
(1) 新規就農者の研修支援					
○新規就農者の確保・育成 ○新規就農者に対する農地提供促進	○新規就農研修支援事業 研修生手当、受入農家等研修補助金を交付 ・中村地域 四万十農園あぐりっこ:研修生2名、受入農家:研修生0名 卒業生4名新規就農 (R2.8、9、R3.1) ・西土佐地域 西土佐農業公社 新規研修生なし (短期研修3名受入) ○農地等の斡旋 ・空き農地、空きハウス情報収集・提供 (中村地域) ・市HP (新規就農者募集ページ) のリニューアル	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県 生産者	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31:4人/年		○新規就農研修支援事業 3,675千円 ・研修生手当 (継続2名、新規2名) ・受入農家等研修補助金 (継続2名、新規3名) ○四万十農園あぐりっこ運営費 10,210千円 ○営農指導拠点施設 (西土佐農業公社) 運営費 14,594千円 ・営農指導拠点施設管理、研修生受入れ (継続0名) ○農地の斡旋 — ・空き農地、ハウス情報収集 (中村地域)
【農業:AP21】					
(2) 新規就農支援体制の拡充					
○相談支援体制の充実 ○経営安定への支援 ○就農開始時の支援	○県外での合同就農相談会等出展1回、リモート相談会2回 ○新規就農支援チームによるトータルサポート ・経営計画作成支援等 (4名実施) ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート ・サポート体制の確立 ・経営計画作成支援等 ○農業次世代人材投資資金 (経営開始型) 交付 継続対象者:10名、新規対象者2名 ○地域営農支援事業 (西土佐農業公社) 【再掲】 ・充電式剪定ハサミの購入補助 (12月) (補助金:360千円)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31:4人/年		○農業次世代人材投資資金事業 16,259千円 ・就農相談会への参加 (東京1回、大阪1回) ・就農初期段階の青年就農者への経営支援 継続対象者:8名、新規対象者:3名 ○就農相談・経営安定化支援 — ・就農支援チームによるトータルサポート 営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等
【農業:AP22】					
(3) 移住促進による新規就農支援					
○移住就農者の誘致活動	○県外での合同就農相談会等出展1回、リモート相談会2回 【再掲】	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31:4人/年		○農業次世代人材投資資金事業 【再掲】 【16,259千円】 ・就農相談会への参加 (東京1回、大阪1回)
2. 認定農業者等の育成					
【農業:AP23】					
(1) 認定農業者制度の周知強化					
○今後育成すべき農業者の把握、誘導 ○認定農業者制度の周知徹底	○人・農地問題解決加速化支援事業 (実質化事業) ・将来の営農意向などのアンケートの実施、農地所有者等の年齢、将来の意向別の地図作成 ・地区座談会の実施、人・農地プラザ実質化公表 ○経営所得安定対策推進事業 5月 中村地域:5回、西土佐地域:3回 ○認定農業者制度 (見込み含む) ・5年経過の更新認定 (中村地域:20人、西土佐地域:3人) ・新規認定 (中村地域:3人、西土佐地域:1名) ・新規就農者、認定新規就農者 (5年経過) へ制度説明・誘導 (2月:中村4名、西土佐0名)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県	◆認定農業者数 H30:139人 → R6:150人 H31:133人 R2:131人		○認定新規就農者の5年経過した者を認定農業者へ誘導 — ○経営所得安定対策推進事業 2,084千円 ・経営所得安定対策受付時やJA水稻生産部でナラシ対策希望者を誘導 ○人・農地問題解決加速化支援事業 (実質化事業) 1,190千円 ・各地域での座談会、検討会、公表
【農業:AP24】					
(2) 認定農業者等のフォローアップの強化					
○認定農業者等のフォローアップの強化	○認定農業者のフォローアップ ・再認定者の計画策定支援 (中村地域:20件、西土佐地域:3件) ・変更認定者の計画策定支援 (中村地域:3件、西土佐0件) ・新規認定者の計画作成支援 (中村地域:4件、西土佐地域:1件) ・西土佐地域認定農業者連絡協議会総会開催 (3月書面決議予定) ○スーパーL資金利子補給 8月 スーパーL資金上半期利子補給 (中村1件、西土佐1件) 2月 スーパーL資金下半期利子補給 (西土佐2件)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 認定農業者連絡協議会	◆認定農業者数 H30:139人 → R6:150人 H31:133人 R2:131人		○担い手育成・確保対策事業 711千円 ・認定農業者のフォローアップ ○農業後継者育成支援 (西土佐地域) 70千円 ・評議会において農業後継者育成のための各種事業の検討及び実施 ○農業経営基盤強化資金 (スーパーL資金) 利子補給 6千円

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主な内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
農業分野					
【再掲】 3. 集落営農の推進					
【農業:AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援	主な内容 ○組織化に向けた取組みの推進、★組織の広域連携の推進、◎フォローアップ体制の充実・強化⇒ 農業AP9				
【農業:AP10】 (2) こうち型集落営農の実践	主な内容 ○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援⇒ 農業AP10				
4 農地の利用促進					
1. 農地の利用調整					
【農業:AP25】 (1) 農地利用の円滑化					
○農地中間管理機構の活用 ○地域の農業委員による農地の利用調整 ◎人・農地プランの実質化	○農地中間管理事業 ・市内全域で中間管理事業実施に向けた農地の掘り起こし ・掘り起こした農地の中間管理権設定 (R2実績:63,576㎡) ・中間管理権設定農地の受け手への配分 ○農業委員等による農地の利用調整 ・農地パトロールの実施、利用意向調査実施、調査結果の取りまとめ結果 (機構利用希望データ) の機構への引渡し、情報提供 ○人・農地問題解決加速化支援事業 (実質化事業) 【再掲】 ・将来の営農意向などのアンケートの実施、農地所有者等の年齢、将来の意向別の地図作成 ・地区座談会の実施、人・農地プラン実質化公表	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 農業委員会		◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化 (流動化) が促進されている	○農地中間管理事業 200千円 ・農地中間管理機構 (県農業公社) と連携した農地の集団化と担い手の育成 ・事業制度の周知 ・農地の出し手の掘り起こし (対象地域: 市内全域) ○農業委員による農地の利用調整 ・利用意向調査の実施、農地パトロール ○人・農地問題解決加速化支援事業 【再掲】 【1,204千円】 ・各地域での座談会、検討会、公表
【農業:AP26】 (3) 基盤整備の推進					
○入田、三里地区整備 ○利岡地区整備 ○その他の地区整備	○入田地区 (R1明許、R1補正、R2現年) 補完工事、換地業務 ○利岡地区 (R1明許、R1補正、R2現年) ほ場整備工事 10.3ha、補完工事、換地業務 ○三里地区 (H30事故繰越、R1明許、R1補正、R2現年) ほ場整備工事3.1ha、補完工事、換地業務 ○整備完了後の促進事業検討協議、基盤整備地区のリストアップ・検討 ○実施要望地区への説明会開催 (深木地区、蕨岡下分地区)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 地区組織	◆ほ場整備実施面積 H31:1,128.3ha → R6:1,144ha R2: 10.3ha (利岡) 3.1ha (三里) 1141.7ha (全体)		○利岡地区整備 (県営事業負担金) 30,000千円 ・補完工事、換地業務 ○三里地区整備 (県営事業負担金) 20,000千円 ・補完工事、換地業務 ○整備検討地区との協議を随時実施
2. 耕作放棄地対策					
【農業:AP27】 (1) 耕作放棄地の再生及び発生防止対策					
○耕作放棄地の再生 ○耕作放棄地の発生防止対策	○耕作放棄地の再生 農地利用意向調査による再生地情報の取得、 農地パトロールによる再生地確認 ○耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域等直接支払交付金 (四万十市計) 交付予定額 83,939千円 交付組織数 50組織 ・多面的機能支払交付金 (四万十市計) 交付予定額 98,759千円 61組織、1446.1ha	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 農業委員会 集落協定組織 農地・水保全組織	◆中山間地域等直接支払制度の実施農地面積 H31:521.5ha →R6:521.5haを維持 ◆多面的機能支払制度の実施農地面積 H31:1,446.1ha →R6:1,446.1haを維持 R2:1446.1ha		○耕作放棄地の再生 ・農業委員による農地パトロール (対象地域: 市内全域) ○耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域等直接支払交付金 85,657千円 ・多面的機能支払交付金 114,752千円
【農業:AP28】 (2) 適合品目の栽培促進					
○適合品目の栽培促進	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 【再掲】 地方創生推進交付金を活用 10月～ 新規定植 (苗代補助) 2,000本 400a (予算 [△] - [△]) 有害鳥獣対策用防護柵 1,500m (設置費補助) (予算 [△] - [△]) ○栗暮プロジェクト 【再掲】 地方創生推進交付金を活用 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換 (栗園へ転換) 1.56ha ・苗木補助1,000本 (見込み)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha ◆栗栽培面積 H30:48.0ha→R6:60.0ha H31:49.2ha		○ぶしゅかん普及推進事業 【再掲】 【1,013千円】 ○栗暮プロジェクト 【再掲】 【1,711千円】 ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業 【再掲】 【1,500千円】 (西土佐地域産業振興推進協議会) ※商工会関連補助金を活用 ・販促資材作成、販路開拓、広告宣伝等

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
林業分野	1 四万十の山づくり	1. 長期的視点に立った産地づくり	【林業:AP1】 (1) ヒノキ産地としての意識の醸成	○ヒノキ産地としての市民意識の醸成 ○森林所有者の意識の醸成	○四万十ヒノキブランド化推進協議会【再掲】 ・強度測定試験の実施：全国ヒノキより優れていることをパンフレットでPR ○提案型集約化施業の推進 ・森林組合、林業事業者で森林所有者へのアプローチ・啓発、提案型集約化施業への地権者合意形成を推進、意向調査業務、境界の明確化の実施	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業者 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆市民、森林所有者へ品質に優れたヒノキ資源が全国有数であり、ヒノキ産地として森林整備の必要性が周知されているとともに、山（林業）や木材への関心が高まっている	○宿泊体験型モデルハウス管理費【再掲】 318千円 ・「四万十ヒノキの家」での見学、宿泊体験の実施 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金【再掲】 200千円 ○フェア等の開催【再掲】 - ・「幡多山もりフェス2021」開催予定 ○提案型集約化施業の推進 -
			【林業:AP2】 (2) 計画的な森林管理・経営の促進	◎森林資源の現状把握とデータ管理の徹底 ○経営類型明確化の推進 ○提案型集約化施業の推進	○森林経営管理制度の運営 ・森林所有者意向調査準備業務:1393筆 ・意向調査業務:120名 ・境界の明確化、林況調査:106.69ha ○市有林台帳、林地台帳（県）データ修正・管理 ○森林整備地域活動支援交付金事業（R2年間計画） ・森林経営計画作成促進（共同計画等） 面積86.52ha ・森林経営計画作成促進（間伐促進） 面積67.45ha ・森林境界の明確化（森林境界の確認） 面積67.45ha ・森林経営計画作成促進・森林境界の明確化に向けた条件整備 面積67.45ha ○森林経営計画の作成 ・林業事業者等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化 ・計画変更4件（中村市森林組合×2、四万十市・中村市森林組合、遠山産業） ・新規計画4件（四万十市1件、西土佐村森林組合1件、明星建設1件、森林整備公社1件）	四万十市（農林水産課） 林業事業者	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha H31:5,361.7ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている	○施業をした森林の市有林台帳のデータ修正・管理 ・造林補助事業等により市有林台帳を随時更新 ○林地台帳整備 ○森林経営計画の作成 ・林業事業者等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化
			【林業:AP3】 (3) 循環型森林整備	★未整備林の整備促進	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・森林所有者意向調査準備業務:1393筆 ・意向調査業務:120名 ・境界の明確化、林況調査:106.69ha	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業者	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha H31:5,361.7ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている	○提案型集約化施業の推進【再掲】 -
			2. 長伐期施業の推進	【林業:AP4】 (1) 長伐期施業方針の啓発及び普及					
				○長伐期施業方針の啓発及び普及		四万十市（農林水産課）		◆長伐期施業方針が広く認知されている	
			【林業:AP5】 (2) 長伐期施業技術（ノウハウ）の蓄積と普及	○市有林におけるモデル林の整備 ○長伐期施業の講習会等の開催	○市有林整備事業 ・三里地区市有林造林業務:下刈り25.59ha（6,037千円） ・三ツ又①地区市有林造林事業:搬出間伐6.01ha（6,363千円） ・三ツ又②地区市有林造林事業:搬出間伐4.83ha、作業道460m（6,610千円） ○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載） ・常六地区（センフォウ）:搬出間伐4.43ha、作業道1,205m（5,591千円） ・大屋敷地区（アカハゲ）:搬出間伐8.0ha、作業道1,500m（6,992千円）（見込） ・大西ノ川・小西ノ川地区（舞の森） 大西ノ川:1工区搬出間伐5.59ha（3,011千円）、2工区搬出間伐7.57ha（2,759千円） 小西ノ川:搬出間伐7.47ha（3,408千円）、マイノ山:保育間伐10.5ha（737千円） クイオ:保育間伐6.0ha（420千円） ・伊才原地区:搬出間伐7.0ha、作業道800m（4,847千円） ・奥屋内地区森の工場:搬出間伐16.0ha、作業道1,300（9,679千円）（見込） ○協働の森づくり ・高瀬地区（松尾山）:搬出間伐1.64ha（2,176千円） ・岩間地区（高引地、粒呂）:搬出間伐8.0ha、作業道500m（8,499千円）（見込） ・板ノ川地区（フシツク）作業道補修（487千円）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業者 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆長伐期施業に関するノウハウ、技術体系が確立され、普及している	○市有林整備事業 39,999千円 ○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載） 47,203千円 ○協働の森づくり 10,357千円

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
林業分野 3. 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大					
【林業:AP6】 (1) 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践					
○森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践	○市有林整備事業【再掲】 ・三里地区市有林造林業務:下刈り25.59ha (6,037千円) ・三ツ又①地区市有林造林事業:搬出間伐6.01ha (6,363千円) ・三ツ又②地区市有林造林事業:搬出間伐4.83ha、作業道460m (6,610千円) ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・常六地区(センチロシ):搬出間伐4.43ha、作業道1,205m (5,591千円) ・大屋敷地区(アカハゲ):搬出間伐8.0ha、作業道1,500m (6,992千円) (見込) ・大西ノ川・小西ノ川地区(舞の森) 大西ノ川:1工区搬出間伐5.59ha(3,011千円)、2工区搬出間伐7.57ha(2,759千円) 小西ノ川:搬出間伐7.47ha(3,408千円)、マイノ山:保育間伐10.5ha(737千円) カイオ:保育間伐6.0ha(420千円) ・伊才原地区:搬出間伐7.0ha、作業道800m (4,847千円) ・奥屋内地区森の工場:搬出間伐16.0ha、作業道1,300 (9,679千円) (見込) ○協働の森づくり【再掲】 ・高瀬地区(松尾山):搬出間伐1.64ha (2,176千円) ・岩間地区(高引地、粒呂):搬出間伐8.0ha、作業道500m (8,499千円) (見込) ・板ノ川地区(フシツク)作業道補修(487千円) ○緊急間伐総合支援事業 ・公益林保全整備(切捨間伐):17.60ha ・作業道:1,937m ・森林整備支援(搬出間伐):2.00ha	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業体	◆原木生産量 H29:71,945m ³ → R6:75,000m ³		○市有林整備事業【再掲】 【39,999千円】 ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 【47,203千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【10,357千円】 ○緊急間伐総合支援事業 5,966千円
【林業:AP7】 (2) 施業の効率化と低コスト化					
○作業道や林業機械導入への支援 ○林内路網の維持管理	○市有林整備事業【再掲】 ・三ツ又②地区市有林造林事業:作業道460m ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・常六地区(センチロシ):作業道1,205m ・大屋敷地区(アカハゲ):作業道1,500m(見込) ・伊才原地区:作業道800m ・奥屋内地区森の工場:作業道1,300 (見込) ○協働の森づくり【再掲】 ・岩間地区(高引地、粒呂):作業道500m ・板ノ川地区(フシツク)作業道補修(487千円) (見込) ○緊急間伐総合支援事業【再掲】 ・作業道 1,937m (1,501千円) (見込) ○林道維持補修:維持工事3件(4,000千円) ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・森林機能強化:L=370m(作業道整備) ○ふるさと暮らし支援事業補助金(作業道の改良・舗装) ・林道舗装:6路線(延長=352.5m、150千円) (見込) ・作業道舗装:2路線(総延長=108m、87千円) (見込)	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業体	◆作業道開設実績延長累計 H29:836,368m → R6:873,000m H30:864,854m	◆効率的な作業システムによる施業の低コスト化が進んでいる	○市有林整備事業【再掲】 【39,999千円】 ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 【47,203千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【10,357千円】 ○緊急間伐総合支援事業【再掲】 【5,966千円】 ○林道維持補修 8,571千円 ○林道改良(片魚四手ノ川線) 3,000千円 ○林道改良(奥古尾線) 1,000千円 ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 95千円 ・森林機能強化:L=200m(作業道整備:市補助20千円) ※市上乗せ分 ○ふるさと暮らし支援事業補助金 2,500千円 ・林道舗装:6路線 ・作業道舗装:2路線
【林業:AP8】 (3) 低コスト再造林、育林の検討					
○低コスト再造林、育林の実践 ○防護ネットの設置と捕獲の促進	○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 12月現在の捕獲頭数 () は計画 シカ 1562頭(2,800頭)、イノシシ 1853頭(1,500頭)、サル 38頭(100頭) ハクビシン 343頭(400頭)、カワウ 326羽(500羽) ○食害ネット設置 ○防護柵設置(県補助):補助金410千円 延長L=1,949m(見込) ○国防護柵設置(事業主体:四万十市有害鳥獣被害対策協議会) ・鳥獣被害防止対策総合支援交付金 整備事業 28地区 柵L=50,305m 66,844千円(見込) 推進事業(捕獲檻) 2,740千円	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業体 四万十市有害鳥獣被害対策協議会	◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 H31:1,814頭	◆低コスト再造林、育林のノウハウ、技術体系の確立が進んでいる	○鳥獣被害防除対策事業(防護柵設置ほか) 1,200千円 ○国防護柵設置 - (事業主体:四万十市有害鳥獣被害対策協議会) ・国へ要望中 ○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 63,805千円 ・鳥獣被害対策実施隊員報酬(200千円) ・年間計画:シカ 2,550頭 イノシシ 1,800頭 サル 50頭 ハクビシン 350頭 カワウ 400羽

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主な内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要	
林業分野	4. 林業事業体や担い手の確保、育成									
		【林業:AP9】 (1) 林業事業体及び林業技術者の育成支援			<ul style="list-style-type: none"> ○「緑の雇用」事業 雇用者12人 (森林組合7名、林業事業体5名) 新規: 4 (組合2、事業体2) 2年目: 5 (組合5、事業体0) 3年目: 3 (森林組合0、林業事業体3) ○林業担い手育成支援事業 緑の雇用事業で新規就業者を雇用している林業事業体に補助金交付 60,000円×12カ月×12名=8,640千円 (見込) ○森林組合の経営力強化 市有林整備事業、協働の森づくり事業、森の工場を実施 	四万十市 (農林水産課) 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド推進協議会 幡多林業活性化センター	◆新規林業就業者数 H27-H30平均5人/年 → R6: 5人/年 H31: 3人/年 R2: 4人/年	◆経営能力の高い森林組合、林業事業体が効率的な生産活動を展開している ◆効率的な林業生産活動を行うことができる優れた担い手が育成されている	<ul style="list-style-type: none"> ○「緑の雇用」事業 ・雇用者13人 (森林組合10名、林業事業体3名) 予定 ○林業担い手育成支援事業 60,000円×12カ月×13名 ○市有林整備事業【再掲】 【39,999千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【10,357千円】 ○環境林整備事業 (組合等が県へ直接申請) - ・木材生産を目的とせず、森林の環境公益の発揮を目指す森林を「環境林」と定め、切捨て間伐を実施 	
		【林業:AP10】 (2) 森林保育等の活動グループへのアプローチ			<ul style="list-style-type: none"> ○兼業型林業事業者の育成支援 ・小規模林家が行う林業機械レンタルの補助 バックホウ×3名 	四万十市 (農林水産課) 兼業型林業事業者		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている	<ul style="list-style-type: none"> ○林地残材の搬出促進 (ハ⁺付マ⁺証明書発行)【再掲】 - ○原木増産推進事業 (レンタルタイプ) 496千円 ・林業事業者の要望を取りまとめ県へ要望中 	
		【林業:AP11】 (3) 自伐林家及び集落組織等の育成			<ul style="list-style-type: none"> ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・中村地域1組織、西土佐地域3組織が森林保全や山村地域活性化などの取り組みを実施 	四万十市 (農林水産課) 自伐林家等		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている	<ul style="list-style-type: none"> ○林地残材の搬出促進 (ハ⁺付マ⁺証明書発行)【再掲】 - ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業【再掲】 【95千円】 ※市上乗せ分 	
	2 供給体制の強化									
	1. 加工事業体の生産力等強化									
		【林業:AP12】 (1) 木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化			主な内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP4					
	2. 供給体制の効率化									
		【林業:AP13】 (1) 木材流通ネットワークの構築			主な内容 ○木材流通ネットワークの構築⇒ 連携AP1					
	3 市産材の利用促進と販売力の強化									
1. 市産材の利用促進										
	【林業:AP14】 (1) 木造住宅の建築促進			主な内容 ○木造住宅建築への支援、○コーディネート組織の設立⇒ 連携AP1						
	【林業:AP15】 (2) 市産材の利用促進及び情報発信の強化			主な内容 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8						
2. 木質バイオマス利用促進										
	【林業:AP16】 (1) 林地残材等の搬出の促進			主な内容 ○林地残材等の搬出の促進⇒ 連携AP1						
	【林業:AP17】 (2) 木質バイオマス利用設備の普及促進			主な内容 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進⇒ 連携AP1						
3. 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化										
	【林業:AP18】 (1) 四万十ヒノキブランドの確立			主な内容 ○四万十ヒノキのブランド化の推進⇒ 連携AP4						
	【林業:AP19】 (2) 四万十ヒノキ製品の生産拡大、商品力の強化			主な内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP4						
	【林業:AP20】 (3) 四万十ヒノキ製品の販売力の強化			主な内容 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化⇒ 連携AP8						

分野		令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主な内容						
林業分野						
4 健全な森づくり						
1. 人と鳥獣の良好・適切な環境づくり						
【林業:AP21】 (1)鳥獣被害対策		主な内容 ○防護ネットの設置と捕獲の促進⇒ 林業AP8				
【林業:AP22】 (2)捕獲の担い手確保、育成						
○捕獲の担い手の確保、育成		○新規狩猟者の確保 (市広報9月号でPR) ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金 (利用者16名) ○新規狩猟者射撃教習受講料補助 利用者3名 (上記16名の内数)	四万十市 (農林水産課) 猟友会	◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 H31:1,814頭		○新規狩猟者の確保 (広報でPR予定) — ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金 240千円 ・年間利用者数見込み:20人 ○新規狩猟者射撃教習受講料補助 370千円 ・年間利用者数見込み:10人
2. 森のものの活用						
【林業:AP23】 (1)特用林産物の生産活動の支援とPR						
○特用林産物の生産活動への支援とPR			四万十市 (農林水産課)	◆特用林産物 (しいたけ、木炭) 生産量 H29:23,466kg → R6:48,000kg H30:25,635kg		○特用林産振興事業 1,577千円 ・しいたけ種駒購入補助

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
水産業分野	1. 水産資源の回復・生産量UP	1. 天然水産資源の回復・増殖	【水産AP1】 (1) 漁場環境、資源量等の調査・研究	○漁場環境、資源量等の調査・研究 ○調査結果の広報活動	○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユの冷水病調査 (9月～3月) ・アユ仔魚調査 (10月～3月)	四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会 漁業協同組合		◆漁場環境や資源量等の継続的な把握と減少要因の分析が進み、漁業者と情報が共有され、天然資源の回復・増殖に向け関係者の連携した取り組みが進んでいる	○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユの冷水病調査 150千円
			【水産AP2】 (2) 生育・漁場環境の保全・整備	○スジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備 ○アユの産卵場の再生と保全管理 ○イセエビ漁礁設置による漁場整備	○四万十川自然再生事業(国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備) アユの産卵場整備や汽水域の浅場再生などを行い、モニタリング調査を実施 H31年度調査実績(調査結果の一部を掲載) ・アユの瀬づくりモニタリング調査 アユ産卵状況調査結果(入田、大浦、大壁、小島) 全産卵場でアユの産卵床が確認(産卵場総面積23,185㎡) 前年比で入田産卵場が半分以下に減少したが、その他は面積が拡大し全体として若干増加 ・魚のゆりかごづくりモニタリング調査 スジアオノリ生育地分布調査結果(山路で試験掘削を行った4箇所) すべての工事区で生育を確認。工事区により生育状況に差があった。 コアマモ分布、生育調査結果(実崎) 実崎の再生工事箇所の3箇所でコアマモの生育を確認。再生工事箇所の生育は7月のみ(繁茂期)で消失が見られたのはいずれもワンド地形であった。	四万十市(農林水産課) 四万十川自然再生協議会 漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t ◆海面漁業漁獲量 H29:14t → R6:15t H30:13t	○国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備 ・四万十川自然再生事業 アユの瀬づくり、魚のゆりかごづくりを推進 ○スジアオノリ漁場整備支援 (実施主体:四万十川下流漁業協同組合) ・河川形状整備等 400千円	
	2. 栽培漁業等の推進	【水産AP3】 (1) 効果的な種苗放流の推進	○内水面資源の種苗放流 ○沿岸資源の種苗放流	○稚アユ等放流補助金 他 ・四万十川中央漁業協同組合 稚アユ1,945kg、うなぎ放流89.88kg ・四万十川西部漁業協同組合 稚アユ929kg、うなぎ放流53.86kg、アメゴ放流20kg ○稚アユ等放流(独自) ・四万十川下流漁業協同組合 稚アユ40kg、うなぎ放流14.68kg	四万十市(農林水産課) 漁業協同組合	◆内水面・沿岸資源の種苗放流 R6:維持	○稚アユ等放流補助金 他 (実施主体:四万十川中央漁業協同組合) ・稚アユ放流、ツガニ放流、うなぎ放流 (実施主体:四万十川西部漁業協同組合) ・稚アユ放流、ツガニ放流、アメゴ放流、うなぎ放流 2,500千円 1,256千円		
		【水産AP4】 (2) アオサの生産拡大	○区画あたりの生産拡大 ○新たな漁場の開拓と新規参入の促進 ○生産・品質管理の徹底	○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・ヒトエグサ漁場環境調査(水温、塩分の測定) ○生産工程マニュアルによるアサ、スジアオノリの生産工程の均一化と品質管理を継続【再掲】 (実施主体:四万十川下流漁業協同組合)	四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会 四万十川下流漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t	◆安定した生産量と品質が確保され、入札業者の増加と高値安定が確保されている	○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・漁場環境調査(水温、塩分の計測) 【150千円】	
		【水産AP5】 (3) スジアオノリの栽培技術の研究などへの支援	○スジアオノリの栽培技術への支援(助言など)		四万十市(農林水産課) 四万十川下流漁業協同組合		◆スジアオノリの自然栽培技術が向上し、安定した生産が行われている		
	3. 地域に根差した資源管理の仕組みづくり	【水産AP6】 (1) 漁場利用の新たなルールづくり	○漁場利用のための新たなルールづくり	○エビ資源保護 (実施主体:高知県内水面漁場管理委員会) ・県内全河川でテナガエビ類採捕禁止(9～3月)(広報掲載)	四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取り組みが進んでいる		

分野		令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主要内容						
水産業分野						
【水産AP7】 (2)資源保護のための情報発信の強化						
○資源保護のための情報発信の強化		○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・密漁防止ポスター掲示 ・各種禁漁期間の周知 (広報掲載)	四万十市 (農林水産課) 漁業協同組合 高南幡東漁業秩序を守る会 (海面漁業)		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取り組みが進んでいる	○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ○高南・幡東地区漁業秩序を守る会負担金 80千円
4. 担い手の確保、育成						
【水産AP8】 (1)新規就業者のための研修・フォローアップ						
○講習会、研修会の開催 ○受入漁家による研修制度の拡充			四万十市 (農林水産課) 漁業協同組合	◆漁業体験研修の受講者数 R2~R6の5年間で3人 H31:0人		
2 水産物の加工、販売促進						
1. 水産物の高付加価値化の推進						
【水産AP9】 (1)今ある商品の磨き上げ		主な内容 ○品質管理の向上、○商品力の強化⇒ 連携AP5				
【水産AP10】 (2)新たな商品開発		主な内容 ○未利用資源等の掘起しと利活用⇒ 連携AP5、連携AP10 ○新たな商品の企画・開発の支援⇒ 連携AP5				
2. 販売力の強化と販路拡大						
【水産AP11】 (1)漁協の販売力の強化		主な内容 ○漁協の販売機能の強化⇒ 連携AP1、連携AP8				
【水産AP12】 (2)ブランド力の強化と販路拡大		主な内容 ○ブランディングの構築と発信、◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP8 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1				
3. 魚食文化の磨き上げと発信						
【水産AP13】 (1)魚食文化の磨き上げ		主な内容 ○魚食文化の磨き上げ⇒ 連携AP10				
【水産AP14】 (2)魚食文化の発信強化		主な内容 ○グルメイベント等での魚食文化の発信⇒ 連携AP11				
3 水産資源を活用した交流の拡大						
1. 体験交流の推進						
【水産AP15】 (1)魅力ある体験商品づくり						
○体験商品の磨き上げ			四万十市 (農林水産課・産業建設課・観光商工課) 漁業協同組合 観光協会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している	
【水産AP16】 (2)体験教室等の開催						
○体験教室の開催		○川漁体験学習等 (四万十川中央漁協組合) ・ウナギ放流 (7月:蕨岡小学校18名) ・投網体験 (7月:中村西中学校1年生60名) ・アユしゃくり漁体験 (7月:大用小・中学校42名) ・アユつかみどり体験 (9月:中村幼稚園) ○四万十川ガキ体験 (7、8月) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 小学生、保護者 (40名参加) 体験内容: カヌー、サップでの川下り ○水辺の楽校 (5~10月) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 中村小、東山小、下田小、竹島小、具同小、大用小、中筋小、中村南小、東中筋小、八束中村小の3~4年生 体験内容: 水生生物採取、清流度調査 ○親子川漁体験 (8月) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 小中学生親子 (47名参加) 講師: 四万十川中央漁協組合 体験内容: 投網、アユつかみどり 提供アユ: 合計30kg (四万十川中央漁協組合)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 漁業協同組合 四万十川漁業振興協議会 四万十の日実行委員会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している	○種苗放流体験 (実施主体: 四万十川漁業振興協議会) ・各漁業協同組合の種苗放流時に実施 ○四万十の日実行委員会補助金 (対象事業のみ) 522千円 ・水辺の楽校 230千円 ・四万十川ガキ体験 (カヌー、サップ) 250千円 ・親子川漁体験 42千円 (投網漁体験、アユのつかみどり) ○川漁体験学習等 ・アユ放流体験 (小学校、四万十川中央漁協組合) ・アユしゃくり漁体験 (小中学校、四万十川中央漁協組合)

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
商工業分野						
1	顧客に選ばれる商工業の振興					
1.1	地域資源を活かした商品開発					
【商工AP1】	主要内容 (1) 今ある特産品等商品の磨き上げ ○テストマーケティング、○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化⇒ 連携AP6					
【商工AP2】	主要内容 (2) 魅力ある素材・アイデアの掘起し ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○事業者間のマッチング機会の創出⇒ 連携AP6					
【商工AP3】	主要内容 (3) 新たな特産品等の商品開発 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援⇒ 連携AP6					
【商工AP4】	主要内容 (4) 商品の販路開拓・販売促進 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1 ○商談会等販路開拓・拡大の支援、◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11					
【商工AP5】	主要内容 (5) 商品開発、販路開拓の中核となる人材、組織の育成等 ○事業者や地域グループ等の人材育成⇒ 連携AP6、連携AP8 ○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興⇒ 連携AP2					
2	四万十の“食”文化の磨き上げと発信					
【商工AP6】	主要内容 (1) 四万十の“食”文化の磨き上げ ○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ、○塩たたきのブランド化の推進⇒ 連携AP10					
【商工AP7】	主要内容 (2) 地域を拠点とした食の発信 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充⇒ 連携AP11 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11					
【商工AP8】	主要内容 (3) 都市圏等を拠点とした食の発信 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動⇒ 連携AP11					
3	地震防災対策における建設事業の推進					
【商工AP9】	(1) 施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保					
○施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保	○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 (令和2年度当初予算額【繰越含む】1,139,674千円)	四万十市 (地震防災課ほか)	◆施設の長寿命化・南海地震対策 R6:強化 ◆住宅耐震化率 H30:69.8% → R6:81.9% H31:71.4%	◆建設業を支える若年層の技術者が増加している	○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 (繰越含む) 1,157,891千円	
	<ul style="list-style-type: none"> 津波避難路災害復旧工事 3,958千円 指定避難所トイレ改修工事 3,360千円 住宅耐震化促進事業 300千円 住宅等耐震改修助成 178,033千円 緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成 16,766千円 ブロック塀耐震対策 2,050千円 避難所自家発電施設整備工事 38,371千円 老朽住宅除却事業費助成 30,000千円 防災減災ため池整備(県営事業負担金) 24,617千円 排水機場長寿命化(県営事業) 30,812千円 右山排水ポンプ場耐震化工事 53,835千円 防災安全社会資本整備交付金事業 673,572千円 			<p>【R3当初】計779,871千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波避難路災害復旧工事 2,000千円 津波避難タワー備蓄倉庫整備 2,420千円 住宅等耐震改修助成 95,701千円 老朽住宅除却事業費助成 40,000千円 排水機場長寿命化(県営事業) 24,600千円 道路メンテナンス事業 150,950千円 防災減災ため池整備(県営事業負担金) 15,000千円 緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成 182,425千円 公共施設適正管理推進(道路長寿命化) 30,233千円 緊急自然災害防止対策(道路防災) 62,292千円 防災安全社会資本整備交付金事業 194,250千円 <p>【繰越明許】計378,020千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅等耐震改修助成 74,000千円 老朽住宅除却事業費助成 10,000千円 避難所自家発電施設整備工事 19,437千円 津波避難路整備 5,692千円 排水機場長寿命化(県営事業) 27,079千円 防災減災ため池整備(県営事業負担金) 18,352千円 緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成 2,411千円 公共施設適正管理推進(道路長寿命化) 7,753千円 緊急自然災害防止対策(道路防災) 34,000千円 防災安全社会資本整備交付金事業 179,296千円 		
2	中心市街地・商店街等の活性化					
1.1	中心市街地、商店街等の魅力・賑わいづくり					
【商工AP10】	(1) 回遊性と集客力向上のための拠点づくり					
○新たな拠点(旧土庫銀行跡地)による情報発信の強化と賑わいの創出⇒ 連携AP2、連携AP8	○文化複合施設整備事業	四万十市 (企画広報課・観光商工課)	◆商店街通行者数(平日) H27~H30平均: 5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日		○文化複合施設整備事業 838,164千円	
○拠点施設間での連携⇒ 連携AP2	<ul style="list-style-type: none"> 複合施設実施設計:市民WS3回、整備検討委員会2回、住民説明会(建築基準法関係)1回、公聴会(建築基準法関係)1回 複合施設管理運営実施計画策定:整備検討委員会4回、団体ヒアリング62団体、パブリックコメント、市民説明会、 複合施設建設予定地地質調査 中央公民館、働く婦人の家解体、働く婦人の家跡地舗装 中央公民館低濃度PCB廃棄物収集運搬処分 中央公民館周辺家屋事後調査、工事損失補償 複合施設整備に係る土地の分筆及び合筆登記 	商工会議所 商店街振興組合 JA高知県 事業者			<ul style="list-style-type: none"> 複合施設建設工事(建築主体工事)(722,568千円) 複合施設建設工事監理業務(45,953千円) 複合施設建設予定地周辺家屋事前調査(4,840千円) 市道五月馬渡線他道路詳細設計業務(12,826千円) 市道五月2号線道路改修工事(29,000千円) 市道五月馬渡線道路改修工事(13,000千円) 複合施設運営準備業務(9,977千円) 	
○文化複合施設を中心とするまちの賑わいづくり	<ul style="list-style-type: none"> 物件移転補償、用地取得 協同整備を行うJAとの連携 					

分野	戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
商工業分野	【商工AP11】 (2) 商店街の機能向上					
	○中心商店街活性化協議会の開催 ○商店街空間整備 ○情報発信機能の充実	○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金 2,435千円 4月1日 「Shimanto+Terrace はれのぼ」オープン 毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 10月 中心商店街活性化協議会開催 地域おこし協力隊の配置 (1名 中心市街地活性化) ・活性化イベント実施 (10月~12月)	四万十市 (観光商工課・産業建設課・まちづくり課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合 事業者	◆商店街通行者数 (平日) H27~H30平均: 5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日		○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業【再掲】 公共部分(公園・トイレ)に係る維持管理費を補助 ○地域おこし協力隊経費【再掲】 (中心市街地活性化1名) 【2,535千円】 【4,330千円】
	【商工AP12】 (3) 日常の賑わいにつながる仕組みづくり					
	○イベント開催等活性化の仕組みづくり ○個店のサービス向上 ○個性が光る店舗の集積	○商店街等振興計画推進事業 (実施主体:天神橋商店街振興組合) ・チャレンジショップ事業補助金 (5,906千円) チャレンジャー2名営業中 (10月2名が卒業、開業) ○商店街等活性化事業費補助金 (新型コロナ対策事業) (実施主体:各商店街振興組合等) 地方創生臨時交付金を活用 商店街等でイベント実施 28件 18,888千円 (2月時点)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街通行者数 (平日) H27~H30平均: 5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日 ◆商店街の新規出店数 R6:10件/5年		○商店街活性化モデル事業【再掲】 ○商店街活性化補助金 (各商店街振興組合) 500千円 ○商店街等振興計画事業費補助金 ①チャレンジショップ事業補助金 5,708千円 ②商店街広報誌作成・まちのポータルサイト運営 675千円 ③四万十五姫の会 商店街活性化事業 712千円 ○空き店舗対策事業補助金 750千円 ○まちなかにぎわい創造事業 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 15,000千円 ○小京都ジュニア駅伝 100千円
	【商工AP13】 (4) 空き店舗対策					
	○空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供 ○空き店舗改修等の支援	○空き店舗対策事業補助金 ・空き店舗入居者に対する店舗改修費の支援 補助見込:4件 ○空き店舗調査 ・市内7商店街振興組合地域の空き店舗調査 ※2月中に実施予定	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街の新規出店数 R6:10件/5年		○空き店舗対策事業補助金【再掲】 ・空き店舗入居者に対する店舗改修費への支援 【750千円】
2. 創業や経営革新への支援強化	【商工AP14】 (1) 経営指導などサポート体制の強化					
	○経営指導などサポート体制の強化	○商工業者経営改善普及事業 (事業主体:中村商工会議所、西土佐商工会) 商工会議所、商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート及びワンストップ窓口化 ○先端設備等導入計画の認定 ・認定件数15件 (変更認定含む。認定後は固定資産税の特例措置等の支援あり。)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30:30件/年 →R6:45件/年 H31:39件/年		○商工業者経営改善普及事業 (実施主体:中村商工会議所、西土佐商工会) ○中小企業振興資金保証料補給 715千円 ○中小企業振興資金利子・保証料補給 7,081千円 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用
	【商工AP15】 (2) 創業や経営革新に意欲ある事業者 (人材) の育成、スキルアップ					
	○事業者の育成、スキルアップ	○商店街等振興計画推進事業 (実施主体:天神橋商店街振興組合)【再掲】 ・チャレンジショップ事業補助金 (5,906千円) チャレンジャー2名営業中 (10月2名が卒業、開業予定)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30:30件/年 →R6:45件/年 H31:39件/年		○チャレンジショップ事業補助金【再掲】 【5,708千円】
3 中山間地域の商業機能の確保						
1. 小さな (田舎) ビジネスの推進	【商工AP16】 (1) 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成	主要内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発⇒ 連携AP6				
	【商工AP17】 (2) 地域の人、もの、コトの発信	主要内容 ◎地域の人、もの、コトの発信⇒ 連携AP8				
	【商工AP18】 (3) ビジネスの拠点づくり	主要内容 ○拠点ビジネスの推進⇒ 連携AP2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP2、連携AP8 ★四万十市を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP3				

分野		令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主要内容						
商工業分野						
4 企業誘致						
1. 情報通信関連産業の誘致促進						
【商工AP19】 (1) 誘致に向けたリサーチ						
○誘致にかかるリサーチ	○企業誘致対策 誘致企業訪問 (東京) 予定	四万十市 (観光商工課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6: 2社/5年 H31: 0社		○企業誘致対策 ・県と連携した誘致企業の情報収集、アプローチ 誘致企業訪問旅費 (東京、徳島)	385千円
【商工AP20】 (2) 誘致活動の推進						
○県と連動した誘致活動の推進 ○支援メニューの創設・受入体制づくり	○企業誘致対策 誘致企業: ソウルダアウト(株) 立地促進事業費補助金 (8,211千円) 7月 ソウルダアウト (株) 役員との協議 (四万十市) 3月 ソウルダアウト(株)訪問 (東京) 予定	四万十市 (観光商工課・農林水産課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6: 2社/5年 H31: 0社 ◆次世代施設園芸等への誘致 企業数 R6: 1社 H31: 0社 ◆既誘致企業での雇用者数 R6: 80名/5年 H31: 34人		○企業誘致対策【再掲】 ・県と連携した誘致企業の情報収集、アプローチ ○コールセンター等立地促進事業費補助金 ・誘致企業: ソウルダアウト(株) 建物賃料・設備取得・設備貸借 雇用奨励金 (正社員登用7名、新規契約社員12名分)	【385千円】 11,550千円
【商工AP21】 (3) 遊休施設等を利活用したシェアオフィス等の整備						
○シェアオフィス等の整備	○企業誘致対策 シェアオフィス等について県産業創造課と協議 (7月)	四万十市 (観光商工課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6: 2社/5年 H31: 0社		○市内の遊休公共施設等を活用しシェアオフィスを整備するための取り組みを実施予定	-

分野	戦略の柱	施策	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
観光分野	1 滞在型の観光地づくり	1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり					
	【観光AP1】 (1) 観光リサーチの徹底	主な内容 ○観光マーケティングリサーチ⇒ 連携AP7					
	【観光AP2】 (2) 今ある観光商品の磨き上げ	主な内容 ○観光商品としての検証と磨き上げ⇒ 連携AP7					
	【観光AP3】 (3) 新たな観光商品づくり	主な内容 ○観光商品づくり研修会等の開催、○異業種連携の強化⇒ 連携AP7					
	【観光AP4】 (4) 食の魅力を活かした観光振興	主な内容 ○食の魅力を活かした観光地づくり、★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売○食の発信・普及イベント等の開催⇒ 連携AP11 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP3					
	2. 広域連携による周遊観光の推進						
	【観光AP5】 (1) 広域連携による周遊観光の推進	主な内容 ○周遊観光プランの造成・発信及び販売⇒ 連携AP7 ○広域連携によるキャンペーンの展開⇒ 連携AP9					
2 観光商品の外商の推進	1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化						
	【観光AP6】 (1) 観光商品のセールス強化	主な内容 ○営業力のある人材、組織の育成、○旅行会社への営業活動の促進、○旅行商品商談会等への出展、○海外への営業活動の促進⇒ 連携AP9					
	【観光AP7】 (2) 広報・プロモーションの強化	主な内容 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化、○ターゲットに合わせたプロモーションの展開⇒ 連携AP9 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動⇒ 連携AP9、連携AP11					
3 おもてなしの向上	1. おもてなし環境の整備						
	【観光AP8】 (1) 四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化						
	○拠点施設の拡充、機能強化	○入田ヤナギ林整備 ・草刈、刈草収集、焼却 (7~9月) ・耕運、木取り (1回)、周辺整備、草刈り、遊歩道整備 (10~2月) ○四万十流域サイクルロード整備【再掲】 ・整備予定箇所の現地確認、樹木の伐採、景観整備 (2~3月) ○観光拠点施設整備 ・四万十ひろばカヌー館オートキャンプ場整備 (4/20オープン) ・かわらっこトイレ改修 (8~11月) ・三山ひろし「四万十川」自動演奏装置設置 完成除幕式10/4	四万十市 (観光商工課) 観光協会	◆公設観光施設等利用者数 H30:162,247人 → R6:170,000人 H31:165,378人 R2:127,839人	○自然体験型観光資源強化事業 ○四万十いやしの里管理運営 ○四万十川学遊館管理運営 ○かわらっこ管理運営 ○入田ヤナギ林整備 ○キャンプ場ほか観光公衆トイレ管理運営 ○四万十パーク管理 ○カヌー館関連施設等管理運営 ○岩間四万十茶屋維持管理補助金 ○四万十楽舎管理運営 ○ホテル星羅四万十管理運営 ○天体観測所施設運営 ○観光施設等緊急整備 (繰越:かわらっこSUP等導入) ○屋外観光拠点施設整備 ・星羅四万十ルフトップ整備、道の駅展望デッキ整備 ○観光拠点施設感染症対策改修 (繰越) ・いやしの里、学遊館、カヌー館のトイレ等改修	5,651千円 6,573千円 21,002千円 3,723千円 4,189千円 6,439千円 2,906千円 5,671千円 110千円 2,328千円 3,410千円 2,013千円 4,646千円 19,676千円 27,975千円	
	【観光AP9】 (2) 二次交通の充実						
	○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信	○四万十川バス運行 ・4~3月 123日運行 (中村駅⇄沈下橋⇄江川崎駅) GW、土、日、祝日及び夏休み (7/20~8/31の全期間)、10月・11月及び3月の土・日・祝日と春休み (3/13~3/31の全期間) ※新型コロナのため、GWの全期間、一部の土日が連休 (14日間) ○市内循環バス (しまんとトロリーバス) の運行 ・GW、夏休み、冬休み、3月 (土日) 70日運行 中村駅⇄宿泊施設⇄郷土博物館⇄佐田沈下橋⇄学遊館⇄中村駅 ※新型コロナのため、GWの全期間運休 (12日間)	四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆二次交通利用者数 H30:6,164人 → R6:10,000人 H31:6,513人	○四万十川バス運行 (自然体験型観光資源強化) 【再掲】 ・中村駅~江川崎駅間 GW、夏・春休み、土日祝日の139日間 (1日2便) 運行 ※12、1、2月は運行しない。 ○循環周遊バス (しまんとトロリーバス) の運行 ・市街地及び郷土博物館、周辺観光地を結ぶ周遊バス GW、夏・春・冬休みの83日間 (1日4便) 運行	【5,551千円】 3,839千円	

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
観光分野	○しまんと・あしずり号 ・GW、夏休み、土日祝日等の211日間運行 (四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市) ※新型コロナのため、GWの全期間を含む4/18~5/31運休 ○四万十・足摺バス販売R02.2月~ (通年) ・路線バス、周遊観光バス乗り放題 (3日、5日間) ※短期滞在の外国人のみ利用可 ○レンタサイクル、おもてなしタクシー (通年) ○予土県境地域連携実行委員会 R2.3~R3.2月下旬 「サイクルトレイン四万十号」運行 (土日祝日)				○周遊観光バスしまんと・あしずり号運行【再掲】 【2,500千円】 (事業主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・GW、夏休み、土日祝日等の運行 (四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市) ○おもてなしタクシーの運行 (通年) — ○レンタサイクル (通年) —
【観光AP10】 (3) 周遊しやすい環境の整備	○観光案内機能の充実 ○一元的な情報発信の促進 ⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11	四万十市 (観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆外国人観光入込客数 H30:3,287人 → R6:5,000人 H31:3,473人 R2:461人	◆周遊しやすい環境づくりが進み観光誘客につながっている	○観光客誘致宣伝活動【再掲】 【3,741千円】 ○地域おこし企業人交流プログラム 8,000千円 (ANA総合研究所から1名招致) ・情報発信、誘致宣伝、旅行商品等造成 ・おもてなし向上「接客研修」開催 ほか ・行政女子プロジェクトチーム
2. おもてなしサービスの充実	【観光AP11】 (1) 観光地としての市民意識の醸成と浸透				
○市民の参画意識の醸成	○地域おこし企業人交流プログラム(ANA総合研究所から1名招致) ・おもてなし向上「接客研修」開催(14回) ○小中学校・高等学校との連携 ・職場体験の受入等(一回) ・総合学習での講義等(4回) ・ボランティア活動の推進(1回:入田ヤナギ林整備) ○小京都ゆかたDAY・笹飾り(7月:市内29団体・店舗189人参加) ○あったか高知秋のおもてなし一斉清掃の実施(10月:7箇所、58名参加) ○入田ヤナギ林の整備 ・一斉清掃(11月)、花まつり会場清掃、草刈り、遊歩道整備(2月) ○四万十川遊覧船協議会 4月 勉強会・相談会(講師:ハローワーク四万十) 8月 四万十川灯籠流しイベント開催	四万十市 (観光商工課) 観光協会		◆観光地であることを広く市民が認識し、おもてなし意識と地域の魅力を伝えられる市民が増えている	○地域おこし企業人交流プログラム【再掲】 【8,000千円】 (ANA総合研究所から1名招致) ・情報発信、誘致宣伝、旅行商品等造成 ・おもてなし向上「接客研修」開催 ほか ・行政女子プロジェクトチーム
【観光AP12】 (2) リピーター確保に向けた取り組み (特典の充実)	○おもてなし感が感じられる仕組みづくり ○地域おこし企業人交流プログラム【再掲】 ・行政女子「ロゼットチーム」(9回:リピーターバッチ、Instagram、エコバッグほか) ・Instagram推進(ワークショップ3回、フォロー約2,000人) 近隣市町村との連携(黒潮町、土佐清水市、いの町、宇和島市ほか) ・うわじま女子旅プロジェクトとの連携(うわじま×しまんと女子旅づくり) ・情報発信(翼の王国、ていくおふ、市フェイスブック等) ・玉姫の会、DIY体験会、SDGs説明会等参加 ・ONSEN・ガストロノミーウォーキング企画 ○連携した取組み(四万十・黒潮旅館組合) ・泊まるともらえる特典キャンペーン(共通割引券) ○手ぶら観光便 ~手荷物配送サービス~(市観光協会)	四万十市 (観光商工課) 観光協会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている	○リピーターバッチの作製、配布【再掲】 【188千円】

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	令和2年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和3年度当初予算 (取り組み) 概要
観光分野					
4 組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成					
1. 観光関連事業者のスキルアップ					
【観光AP13】					
(1) 観光関連組織の役割分担と組織力の強化					
○役割分担の明確化とスキル・組織力の強化 ○コーディネーターの育成	○滞在型の観光地づくり (実施主体：四万十市観光協会) 【再掲】 ・地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり 観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向調査 (4月～) 観光動向アンケート調査 (5月中止、8月沈下橋など) レンタサイクルと観光遊覧船のお得セット造成 ウェブサイト「四万十の小さな旅くねくね」周遊コース造成 広域観光クラスター整備計画 (SDGs) 2月 四万十川観光PR事業「四万十川花火～小さな春の訪れ～」 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 【再掲】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・モニターツアー受入：一般旅行モニターツアー (とさでんトラベルなど6回)、 OATAモニターツアー (18社)、教育旅行モニターツアー (4社) ・教育旅行受入 (16校) ・高知県観光説明会 (高知) (11社) ・四国DC全国宣伝販売促進会議商談会 (7社) ・観光PRブース ・ツーリズムEXPO (オンライン商談会2社) ・クルーズ船モニターツアー・オプションツアー商談会 (3社) ・「Visit Shikoku Travel Mart2020」 (2月オンライン開催) ・国立公園でのワーケーション推進事業ファミトリップ (インフルエンサー3名) ・全国ほんもの体験ネットワーク総会 ・はた旅クーポン事業 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 クーポン券5,000円×幡多1万泊 (市内3,977泊分) 有効期限:8/1～1/31 1月末までクーポン券市内利用実績:43,564枚 (1枚500円券) ○四万十市クーポン事業 (新型コロナ対策事業) 【再掲】 地方創生臨時交付金を活用 登録数 提携宿泊施設:32 クーポン券取扱店:298 1月～ クーポン券配布 (5,000円×市内2万泊)	四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会		◆観光人材・組織のスキル (商品企画、営業力等) が向上し、観光誘客の拡大につながっている ◆観光協会の案内機能 R6:強化	○観光案内所運営補助金 【再掲】 【7,200千円】 (事業主体：四万十市観光協会) ・観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向等 ○幡多広域観光協議会負担金 【再掲】 【12,549千円】 (事業主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開
【観光AP14】					
(2) 異業種との交流・連携の促進					
主要内容 ○異業種連携の強化⇒ 連携AP7					
2. 観光人材の育成、確保					
【観光AP15】					
(1) 地域の観光リーダーの育成					
○地域のキーマンの発掘、育成	○四万十市体験型観光受入研究会 【再掲】 ・藤澤アドバイザー研修	四万十市 (観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆地域で核となる観光人材が育成されている	○四万十市体験型観光受入研究会 【再掲】 【48千円】 ○幡多広域観光協議会負担金 【再掲】 【12,549千円】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ○地域おこし協力隊経費 (地域振興5名) 【再掲】 【18,264千円】 富山、大川筋・後川、須崎、大宮、奥屋内地区
【観光AP16】					
(2) 将来の担い手の発掘・育成					
○インストラクター、ガイドの育成 ○ボランティア等の受け入れ	○四万十市体験型観光受入研究会 【再掲】 ・勉強会 (新型コロナ感染症に対応した受入など) (8、10月) ・来年度の田舎暮らし体験について (意見交換) (2回) ○トンボ自然公園環境整備 ・スイレン根抜きボランティア (1/31、2/13:約50人参加) ○リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～関連 (H31.2開幕～R3.2閉幕) 【再掲】 ・観光ガイドミーティング (6回)、先進地視察 (1回) ・ガイド実績 (6団体:38名)	四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆観光人材の育成、レベルアップが図られている ◆観光の担い手確保につながっている	○地域おこし企業人交流プログラム 【再掲】 【8,000千円】 (ANA総合研究所から1名招致) ○四万十市体験型観光受入研究会 【再掲】 【48千円】 ○幡多広域観光協議会負担金 【再掲】 【12,549千円】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ○四万十市観光振興連絡会議 (菜の花部会) 【再掲】 【1,450千円】 ・入田ヤナギ林菜の花祭り会場整備